



編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区支鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第178号 題字 故鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

「るのほな同窓会総会」 開催のお知らせ

平成30年度るのほな同窓会総会を左記により開催いたします。

- 日時
平成30年6月9日(土)
午後3時30分より
- 場所
銀座アスター御茶ノ水資館
電話03-3293-8011
- 議事等
(1) 名誉会員の推薦について
(2) 年次活動について(報告事項)
(3) 平成29年度決算について
- 平成30年度事業計画について
- 平成30年度予算案について
- 役員を選出について
- その他

るのほな同窓会賞
受賞者挨拶

平成29年度千葉大学医学部 卒業証書伝達式・祝辞

3月23日(金) 於 記念講堂

るのほな同窓会長 於 記念講堂
わたやう 高穂 (昭45)



本日は卒業の諸君、ご家族のみなさん卒業おめでとうございます。

大学の修業課程をすべて修了し、また長かった小学校入学以来の18年間の教育

若手スピーチ
「成長戦略として考える
女性医師の育成」
三澤園子氏 (平11)

特別講演1.
「腎臓トランスポーターと
高尿酸血症」
安西尚彦氏 (平2)

特別講演2.
「日本の医療はどこへ向かうのか」
堺 常雄氏 (昭45)

懇親会 午後6時より
於：銀座アスター御茶ノ

水資館
会費 一万円
学生会員・平16年卒以降
卒業の会員は無料
(当日受付にて申し受けます)

個人情報保護のために同封のシールを貼り、返信用葉書にて出欠の返事をお送りください。

なお、ご返事のない場合は、総会の議決を議長にご一任頂いたものとさせていただきます。
(6月1日必着)
東京るのほな同窓会は同日同所にて午後3時~3時30分に開催します。

に同窓会員の動静や活動状況をつぶさに報告していただきます。またるのほな同窓会のホームページも近年充実し、ネットで最新の情報も発信しております。各自のパソコンで閲覧可能なので診療の合間に閲覧していただくようお願いいたします。

その他、図書館や学生寮への支援、運動部・文化部など課外活動・東日本医科学生総合体育大会への助成など幅広い賛助活動を実施しており、また関東各都府県やその他の支部での会員活動へも積極的に支援していますので、各県で勤務される皆さんは、所属する支部と連絡を密にして、その活

動に参加・協力していただくようお願いいたします。
4年前に、千葉大学開学135周年事業として、同窓会員総意のもとに、多額の浄財を募り、新同窓会館が完成しました。会員の母校愛の発露として、また同窓生の絆の象徴として末長く活用されるよう希望しております。

わが千葉大学医学部は、歴史的に優秀な研究者あるいは熱意溢れる臨床医を数多く輩出してきており、国際的評価を受けた先輩も多数いるわけです。皆さんもこれからも努力を重ねこれら諸先輩に続いて、医療界に足跡を残す医師として成長するよう心より願っております。

今年、明治維新から150年で、江戸時代の五畿七道に加えて北海道が名づけられ150年ということになりました。

す。北大の前身、札幌農学校で教鞭をとったクラーク博士がはなむけに残した「青年よ大志を抱け」の言葉は有名ですが、その真意は、お金や名声を意図するのではなく、世のため人のための人生を目指せという事なのです。

そして、諸君がいかにも人生を送るべきかを、戦前の東大法学部長で東宮侍従長も務められた、穂積重遠という教授が卒業生へのはなむけの言葉として「いはるな、くさるな、気はせくな」と戒められています。私事にわたり大変恐縮ですが、穂積先生は私の父親の恩師で、明治の経済界の偉人、洪沢栄一の孫にあたる人ですが、「おおよそエリートである人間は勘違いをして、偉ぶることが多い。その際もつと穏やかに話すは」(次面に続く)

紙面紹介

総会開催	1	著書紹介	15
卒業祝辞	2	雑談	16
就任挨拶	3	会員から	17
名誉教授から	4	地区るのほな会報	18
受賞の挨拶	4	学内情報	20
人事異動	5	課外活動団体だより	21
各地るのほな会	7	卒後研修先	22
クラス会	8	議事要旨	23
研修プログラム	10	オンライン会報	24
研修医だより	11	編集後記	25
追悼文	13		26
	15		27
			28

就任挨拶

北海道大学大学院医学研究院

免疫学教室 教授

テキサスA & M大学微生物免疫学教授 兼任

小林 弘一 (平3)



アメリカ在住19年で、北海道大学医学部免疫学(元細菌学)の6代目教授とし

成3年に卒業致しました。学部生の間は実験がしたくて、第二生理学(本田良行

てこの度着任することになりました。研究室を主宰するのはこれで3回目ですが、日本での研究室は初めてです。

私は千葉大学医学部を平

(清陽先生のつづき) うがいい。また新人であるゆえ瑣末な仕事をなさねばならぬことも多々あり、自分を卑下する場面もあるかもしれない。その際にも落ち込むことなく、淡々と仕事をこなすことで、誇りを忘れずにいて欲しい」との言葉です。諸君も医師となり医療の責任者として命令することもあろう。また追い詰められた患者の愚痴に耳を傾ける必要があるかも知れない。その際もできるだけ誠心誠意医療の一環として、相手になってあげて欲しい、いはるのは10年早

いだろう、また平常心をいつも心がけて、あせらないことが大事だということだろうと思います。はなむけの言葉としてはいささか独善的ですが、大志を抱き、大きな仕事を目指すのも大事ではあるが、あくまで人間社会を尊重する行動に徹することをお願いしたいと思います。

教授、直接の御指導は当時助教授の福田康一郎先生(清水文七教授、第一微生物学)のち教授、第一微生物学指導は当時大学院生の白澤浩先生・現分子ウイルス学教授、丹澤秀樹先生・現口腔科学教授、のち分子ウイルス、口腔科学教授、免疫発生学(谷口克教授、直接の御指導は当時助手の田川雅敏先生・現千葉県がんセンター部長、のち千葉県がんセンター部長)にお世話になりました。卒業後は第二内科(吉田尚、齋藤康教授)に入局後、千葉大病院と国保旭中央病院での研修を経て、1994年に徳久剛史教授(現千葉大学学長)の元で免疫学の研究を始めました。当時の千葉大学の免疫学は、谷口、斉藤隆、徳久先生の3教授の元、菅野雅元、古関明彦、大野博司、宮武昌一郎、荒瀬尚、中野裕康、幡野雅彦先生といった今から考えると錚々たる面々が若手として活躍中で、私達学生にも研究室の壁を超えて相談に乗って下さっていました。

2004年に研究室をハーバード大学のダナファーパー癌研究所に持つことができました。ハーバード大学は教官へのプレッシャーが非常に強い反面、素晴らしい同僚がたくさんおり、とりわけ免疫学プログラムは学生にとっては天国のように思えます。ハーバード大学では8年過ごし、自然免疫や、炎症性疾患の原因解明、特にクロロン病の発症モデルの作成と遺伝学的機序などを明らかにしました。

2012年には、テキサスA & M大学に移りました。テキサスA & Mはキャンパス内に大学の空港や10万人収容のスタジアムを有するなどスケールが大きい大学で、大学財団資金は110億ドル(1位はハーバード大学の350億ドル)、研究予算年間10億ドルと研究面でもスケールの大きい大学です。私の教室の研究ですが、自然免疫に加え、MHC遺伝子の発現制御をメインテーマとしています。クラスIIの発現制御因子であるCITAは1993年に同定されましたが、クラスIの発現制御因子(CITA = NLRC5)は私達が同定するまで長く未知でした。クラスIはCD8T細胞の機能に必須のため、私たちの研究も広い分野に広がりがつあります。

千葉大学は齋藤(康)、徳久、中山俊憲先生らのリーダーシップのもと、国際競争に勝ち抜くための素晴らしい試みをして来ている。私もこの機会に負けじと、無理やり兼任にしてみたい、北海道大学の授業の多くは英語で、さらには外国人講師にオンラインで授業をしてもらい、テキサスA & M大学の姉妹研究室とオンラインミーティングを行うなど勝手に改革を行って行っています。今後日本の医学研究が国際的競争力を失わない様にするのは一筋縄ではいかないと危惧しております。千葉大学の先生方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しくお願い致します。



平成29年度 卒業証書・学位記伝達式

名 譽 教 授 从 事 者

セカンドステージに入る附属病院 マススペクトロメトリー(質量分析) 検査診断学寄付研究部門

千葉大学名誉教授
千葉大学医学部附属病院特任教授 野村文夫(昭50)

私は平成26年3月に医学研究院分子病態解析学教授と附属病院検査部・遺伝子診療部部长を定年退任しましたが、研究途上であった質量分析検査診断学を社会実装したいとの思いが強くなり、平成27年4月附属病院マススペクトロメトリー検査診断学寄付研究部門を担当させて頂くことになりました。3年経過してまだ道半ばですが、このたび平成30年4月よりセカンドステージに入ることになりました。皆様のご支援に心より感謝いたします。

(1)については大規模なナショナルプロジェクトが必要で、例えば独立行政法人医薬基盤研(本学第二外科出身の朝長毅先生・昭59がプロジェクトリーダー)が多くの成果を上げています。本寄付研究部門は上記の(2)すなわち、MSの利点、特徴を活かしたマススペクトロメトリー検査診断学を確立し、その社会実装を推進することをミッションとしていきます。幸運にも検査関連企業3社(エスールエル、日本電子、富士レリオ)に企業の枠や利害を超えて当方の趣旨にご賛同いただきました。私と佐藤守准教授、2名



の助教と事務(秘書)の小さな所帯ですが、病院のご理解を得て研究スペースを頂き、検査部をはじめ複数の診療科(部)と共同研究を進め、小児病態学、分子病態解析学からは大学院生を派遣していただいています。さて、従来臨床検査に利用されてこなかった分析機器を医療として使用するためには薬機法(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)による承認が必要で、関係諸団体の努力の結果、平成29年3月にMSが初めて薬機法で正式に認められたことは社会実装に向けての大きな一歩だと思います。

イムノアッセイは現在の臨床検査の主役ですが、測定対象項目に構造類似体がある場合(各種ビタミン・ステロイド、ペプチドなど)が多く、いかに抗体を使い分けたとしてもその特異性には限界があります。この点、わずかな質量の違いを弁別できるMSは圧倒的に有利です。研究室レベルの検査手法をリアルワールドの医療で活用するためには保険償還可能とすることが求められます。その一つの道は先ず先進医療として実績を上

謝 恩 会



千葉県医師会学術奨励賞受賞

「漢方古方口訣集」編集発行

鎌田耳鼻咽喉科医院

鎌田 慶市郎 (群馬大・昭35)



た。

漢方(漢方医学ともい

う)は伝統中国医学だが、

後漢末(西暦2世紀から3

世紀初頭)にかけて生存し

たと伝えられる張仲景がそ

れまでの民間療法・医療な

どを病態とそれに対応する

薬物療法を集め編集したの

が傷寒論である。江戸初

期、当時活躍していた名古

屋玄医は、当時の医療は後

代の医療であって真のもの

ではなく、医療はすべから

く傷寒論に立ち戻るべき

であると唱えた。江戸中

期、吉益東洞は傷寒論医学

を絶対的なものとし、これ

が「吉益流」とも呼ばれ全

国に行き渡った。これは古

方と呼ばれた。それまで行

われていた唐代、金、元の

医療を後世方という。その

両者の良いところを採った

ものは折衷派と名付けられ

た。

明治時代に入り漢方医学

は軍陣医療には役立たない

ということであつた。大量に

生産できる化学薬品をもち

いる西洋医学にとつて変え

られた。そのため漢方は尾

臺容堂、中西深斎、浅田宗

伯など一部の医師たちの間

で細々と伝えられ何とか命

脈を保った。そして昭和25

年当時の日本医師会長武見

太郎氏の英断により、漢方

方剤(エキス製剤)が健康

保険に適用となり再度日の

目を見ることになった。

千葉では「医界之鉄椎」

の著者と田啓十郎氏の長男

正系(旧制千葉医学専門学

校出身)が太平洋戦争中、

漢方診療を開始した。一

方、旧制千葉医科大学学生

藤平健が、学内に東洋医学

研究会を立ち上げ、卒業後

も引き続いて眼科学教室に

て、三井惟親(1816

年、文化13年9月)の子孫

奥田謙蔵に師事のかたわ

ら、父の千葉市登戸の眼科

院を引き継ぐと同時に漢方

人事異動

診療を開始した。他に同窓

小倉重成、伊藤清夫、鍋谷

欣一杏林大学教授、多紀英

樹、秋葉哲生、盛克己、中

村謙介、筆者に引き継がれ

た。以上「千葉大学東洋医

学六十年史」による。

平成4年、文部科学省の

方針により富山医科薬科大

学に和漢診療学が開設さ

れ、寺澤捷年が初代教授に

就任、平成17年千葉大学大

学院医学研究院教授に転

任、定年後並木隆雄に引き

継がれた。

(平成29年12月記)

略歴

昭和

35年

群馬大学医学部卒業

国立千葉病院にてイ

ンターン生

36年

千葉大学医学部耳鼻

咽喉科教室入局

40年

同教室助手

41年

千葉労災病院耳鼻咽

喉科副部長

42年

医学博士授与(千葉

大学医学部)

43年

千葉市稲毛区にて耳

鼻咽喉科医院開設

教授

子どものこころ発達教育

研究センター

中川 彰子

(鹿児島大・昭57)

(同特任教授より)

平野 好幸(岐阜大・平11)

(同特任教授より)

動物病態学

伊勢川直久

(東京大農・昭57)

(同講師より)

整形外科

落合 信靖(平10)

(整形外科学講師より)

講師

皮膚科学

松岡 悠美(山梨大・平15)

(同助教より)

環境生命医学

鈴木 崇根(平11)

(同助教より)

分子腫瘍学

松坂 恵介(広島大・平16)

(同助教より)

細胞治療内科学

前澤 善朗(平10)

(同助教より)

消化器内科

中川 倫夫

(宮崎医大・平10)

(同助教より)

食道・胃腸外科

村上健太郎(信州大・平13)

(同助教より)

整形外科

古矢 丈雄(新潟大・平13)

(整形外科学助教より)

耳鼻咽喉・頭頸部外科

米倉 修二(熊本大・平12)

(同助教より)

形成・美容外科

栗山 元根(平9)

(高知大附属病院より)

感染制御部

谷口 俊文(平13)

(同助教より)

他大学教授

北海道大学大学院医学研究

院免疫学教室

小林 弘一(平3)

国際医療福祉大学

神経内科学

内山 智之(長崎大・平7)

埼玉医科大学国際医療センタ

ー

心臓血管外科

中嶋 博之(平7)

自治医科大学

メデイカルシミュレーショ

ンセンター

川平 洋(平4)

(同助教より)

獨協医科大学

生理学(生体情報)講座

神作 憲司(平7)

病院長

千葉県済生会習志野病院

小林 智(昭和58)

沼津市立病院

下部 憲和(昭58)

千葉県職員人事異動

健康福祉部

野田健康福祉センター

杉戸 一寿(平元)

センター長(印旛健康福

祉センター長)

石井 浩(昭61)

医療局診療部長(新採)

郡司 久

主任医長(新採)

救急医療センター

石橋 巖(昭55)

病院長(副病院長)

古口 徳雄(昭60)

副病院長(医療局診療部長)

宮田 昭宏(昭62)

診療部長(脳血管治療科

長)

笹原資太郎(平14)

主任医長(新採)

山内 利宏(慈恵医大・平8)

脳血管治療科部長(主任医

長)

当間 雄之(平7)

外傷治療科部長(主任医

長)

こども病院

渡邊 俊英(北大歯・平4)

歯科部長(新採)

光永 哲也

小児外科部長(主任医

長)

循環器病センター

峯 清一郎(昭55)

副病院長(医療局長)

岡嶋 良知(昭58)

医療局長(診療部長)

川副 泰隆(昭59)

診療部長(小児科部長)

立野 滋(昭63)

小児科部長(主任医

長)

永野 修(新潟大・平11)

脳神経外科部長(主任医

長)

佐原病院

山本 宏(昭53)

病院長(副病院長)

中堀 進(昭63)

医療局長(診療部長)

大月 和宣(山口大・平2)

診療部長(主任医

長)

千葉県職員より退職

小林 繁樹(昭54)

救急医療センター病院長

小林 進(昭54)

佐原病院長

松尾 浩三(昭55)

循環器病センター副病院

長

岩井 潤(昭53)

こども病院医療局診療部長

松戸市職員人事異動

松戸市職員より退職

木村 亮(昭57)

東松戸病院長(総合医療

センター副病院長)

松戸市職員より退職

岩井 直路(昭57)

東松戸病院長

東松戸病院長

各地のなはな会 だより

埼玉のなはな会

平成29年度埼玉のなはな会総会が10月29日(日)午後3時より例年通りパレスホテル大宮で開かれました。

出席者はご来賓として群馬のなはな会会長鈴木守先生、静岡のなはな会会長忍頂寺紀彰先生、栃木のなはな会会長尾秀彰先生にお越しいただきました。ご来賓の先生方には台風の中、遠方よりご出席いただきまして大変ありがとうございました。

まず初めに昨年度に亡くなられた方々を追悼し黙禱を捧げました。いつもお元気で出席なされていた昭和17年卒の水間正冬先生はじめ八名の先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

続いて総会に入り吉川廣和会長の挨拶、済陽高穂先生の本部報告、受勲、米寿、喜寿のお祝い等が行われました。続いて新幹事の紹介があり、山下純男先生(昭58)、藤間泰先生(昭59)、石川文彦先生(平2)が新幹事となりました。若い先生方による会の活性化が期

待されます。

学術講演として千葉大学法医学教室の岩瀬博太郎教授が「死因究明における千葉大学法医学教室の役割」と題して講演なされました。日本は外国に比し解剖率が非常に低く、犯罪が見逃される事、欧米に比べ医師やスタッフの数、設備等が著しく少ない現状を示されました。門外漢ですが、制度を変えていく必要を実感しました。岩瀬教授には頑張っていたいただきたいと思ひます。続いて千葉大学小児病態学教授の下条直樹教授が「アレルギー疾患についての最近の話題ー食物アレルギーを中心に」と題して千葉大病院の最近の出来事も合わせて講演なされました。食物アレルギーのショックによる死亡例などを示され、小児科、内科の先生方だけでなく子供や孫のいる先生方にも大変なめになったと思ひます。

懇親会ではご来賓の挨拶を頂き、他の地区よりも財務状況が良いとの指摘がありました。ちなみに昨年度は会員約350余名、年会費納入者は86名でした。会員数は横ばい状態ですが、会費納入者の割合は年々減少してきております。総会の出席者数も40名と会員数を考

えると多いとは言えない状況です。今回は深谷赤十字病院から3人の研修医、熊谷総合病院から9人の勤務医が出席したことは会の活性化につながることを期待されます。

写真右から

前列：木村純(昭49)、静岡のなはな会長・忍頂寺紀彰(昭42)、岩瀬博太郎教授、下条直樹教授、吉川廣和(昭40)、田口勝(昭34)、済陽高穂(昭45)、群馬のなはな会長・鈴木守(昭



39)、栃木のなはな会長・崎尾秀彰(昭44)、小川富雄(昭48)

二列目：武内嵩(平29)、土合克己(平3)、伊藤博(昭56)、赤井壽紀(昭43)、

門山周文(昭51)、諏訪敏一(昭43)、野口哲夫(昭

48)、中村勉(昭52)、兵頭明夫(昭52)、今野慎(昭

62)

三列目：藤野健人(平29)、平山信男(平8)、藤間泰(昭59)、上野泉(昭53)、

植松武史(昭55)、小林彰(昭52)、松本生(昭36)、

五月女直樹(昭49)、山下純男(昭58)、得丸幸夫(昭

53)

最後列：池水結輝(平28)、吉澤卓(昭53)、西山秀木(昭54)、橋本健、門野源一

郎(平6)、齋藤雅彦(平3)、太田秀幸(広島大・

平元)、渡辺恒家(昭54)、杉浦敏之(昭63)、石川文彦(平2)、新村兼康(金

沢大・平4)

(小林彰)



第16回 亥鼻祭

千葉大学医・薬・看護学部大学祭 開催のお知らせ

日時：2018年11月4日(日)
10:00~17:00

場所：亥鼻キャンパス

2018年度亥鼻祭実行委員会

実行委員長 医学部3年 國富 美由
医学部3年 福島 剛

*ご寄付の願いを同封いたしております。ご協力をお願い致します。

同日、のなはな同窓会によるホームカミングデイを、のなはな同窓会館にて開催いたします。ご参加ください。

叙勲、褒章その他祝事に関係され方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思ひますのでよろしくお願ひ申しあげます。

東京のほな会

平成30年の東京のほな会新年会を1月13日銀座アスタール御茶ノ水資館にて開催しました。会員の先生方には1月の始めの忙しい時期にもかかわらず多数の参加を頂きました。

今回は特別講演としてお二人の先生をお招きしました。お一人は千葉大学病院長・副学長の山本修一先生(昭58)で「千葉大学病院の目指すところ」というタイトルで、千葉大学病院の置かれている現状と改革、将来展望についてお話し頂きました。国立大学全体に共通する問題点、各大学が抱える問題点についてお話し頂きました。私立大学、市中病院にも共通する内容や、参考にすべき内容で会員の反響も大でした。

もう一方は日本医師会常任理事・千葉大学各員教授の石川広己先生(昭55)の講演で「日本の上品な医療ビッグデータ構築に向けて」というタイトルで日医の立場から安全かつ有効な方法で、様々な医療データの集積と解析を行う方策をお話し頂きました。上品という言葉は不適切な利用(下品)に対抗する表現

でした。また日医の作成された医師資格証が医師免許証の写しの代わりになると、国からも認定された公式なものであることを示して頂きました。のほなの同窓ということもあり、ざつぱらんな質疑応答がなされ懇親会ではさらに自由な意見交換がなされました。



た。

平成28年新年会、総会から企画されているショートスピーチコーナーは神保りか先生(平14)の自己紹介、現在の勤務先である東都文京病院健診センターでの自身の取り組みについて示され、今後同世代の同窓も「東京のほな会に誘います」という力強い言葉もありました。医学部4年の上野健君の自己紹介と挨拶、医学部3年の中西恵さんもハーバード大学の研修についての報告がありました。若い世代のスピーチから大学の未来は明るいと確信するものでした。

懇親会では唐澤祥人前日医会長(昭43)のご挨拶、伊藤達雄前東京のほな会会長の乾杯のご発声に始まり、和やかなムードで進行し、世代を超えた情報交換がなされました。本年6月9日には千葉大学のほな同窓会総会を東京のほな会が担当しますので、役員一同魅力ある企画を考え全国のな会を成功させたいと考えています。

記念写真を掲示しますが出席者が多く、撮影後に参加された先生もおられましたので学年順の氏名(敬称略)のみを記載しました。(出席者) 村瀬靖(昭30)、

神田敬(昭35)、岩倉弘毅

(昭37)、宮下久夫(昭38)、

伊藤達雄(昭42)、唐澤祥

人(昭43)、中林正雄(昭

43)、奥村康(昭44)、橋本

英明(昭45)、林泰(昭45)、

堀内正敏(昭45)、矢端幸

夫(昭46)、佐藤元(昭50)、

高林克己(昭50)、石川

てる代(昭53)、吉原俊雄

(昭53)、栗原正利(昭54)、

永瀬裕三(昭54)、藤田明

(昭55)、石川広己(昭55)、

永田博史(昭57)、小宮山

伸之(昭58)、村山耕一郎

(昭58)、山本修一(昭58)、

赤倉功一郎(昭59)、島田

英昭(昭59)、窪田徳幸(昭

60)、中川敬一(昭60)、加

藤直也(昭61)、中世古知

昭(昭63)、石井康宏(平

元)、加藤厚(平元)、安西

尚彦(平2)、岡田吉弘(平

2)、岡本和久(平2)、石

塚満(平3)、三浦文彦(平

3)、井上賢治(平5)、菱

木知郎(平5)、横須賀忠

(平5)、溝淵輝明(平7)、

三澤園子(平11)、神保り

か(平14)、中馬久美子(平

15)、吉村健佑(平19)、佐

藤真洋(平21)、中上桂吾

(平21)、吉原晋太郎(平

21)、黒川友哉(平23)、豊

田幸子(平23)、上野健(医

4)、中西恵(医3)

(吉原俊雄)

2018年 開催される学会

- 第22回 腸内細菌学会
宿主-腸内細菌相互作用
- 双方制御の分子メカニズムに迫る -
5月31日(木) ~ 6月1日(金)
タワーホール船堀
- 第36回 日本肥満症治療学会学術集会
統合された肥満症精密医療を目指して
6月15日(金) ~ 16日(土)
学術総合センター 一橋講堂
- 第28回 日本心臓核医学会総会・学術大会
ともに、未来のために
- 医・業・理工連携による新たな飛躍
7月6日(金) ~ 7日(土)
伊藤国際学術研究センター(東京大学構内)
- 第36回 日本受精着床学会総会・学術講演会
生殖医療と社会の調和：子を望むカップルとともに
7月26日(木) ~ 27日(金)
幕張メッセ国際会議場
- 第45回 日本マスキリーニング学会 学術集会
遺伝子によるマスキリーニングを考える
8月17日(金) ~ 18日(土)
ラフレさいたま
- 第54回 日本胆道学会学術集会
胆道学の未来、叡智の結集
9月27日(木) ~ 28日(金)
幕張メッセ
- 第72回 日本臨床眼科学会
見えるを守る
10月11日(木) ~ 14日(日)
東京国際フォーラム・JPタワーホール&カンファレンス
- 第24回 日本臨床死生学会 年次大会
緩和ケア領域における死生学探求の意味
人生の終焉をサポートする
10月13日(土) ~ 14日(日)
千葉県立保健医療大学 講堂・教室

多摩のものはな会



秋の深まりを感じる平成29年10月21日(土)、国分寺駅ビル9階の「いらか」にて、第43回多摩のものはな会が開催されました。当日は多摩総合医療センターの若手常勤医師や研修医の先生方、また都立府中病院OBや近隣の先生方、総勢19人に御参加いただき、会が催されました。

先ず多摩北部医療センターの外科系副院長になられた高西喜重郎先生(昭和61年卒)が「腹腔鏡下肝胆膵手術の現状」の標題で約50分間、手術の動画をまじえて講演されました。腹腔鏡下で幅広い疾患を対象として安全着実に手術が行われていることを一理解し納得しました。続いて99才で亡くなられた永井友二郎先生のご冥福を祈り、全員黙とうしました。そして山本弘会長(昭39)の挨拶、佐野迪夫先生(昭29)の乾杯の御発声の後、懇談会に入りました。最長老であ

り、現役の佐野先生、結核研究所に長くお勤めされている小山明先生(昭35)、元都立府中病院(現多摩総合医療センター)呼吸器科部長の鈴木光先生(昭36)、山本会長、菊池友允先生(昭47)等、興味あるお話を伺うことができました。中堅のドクターも都立病院などの役職で御活躍されています。若手ドクターからは「千葉から出て来て寂しかったが、こんなに多くのベテランの頼りになる先生方が居られて安心した」という声が聞かれました。

午後9時を廻り、来年の再開を約束して、賑やかな会を終了しました。写真右から
前列・松原公護(昭54)、山本弘(昭39)、佐野迪雄(昭29)、小山明(昭35)、鈴木光(昭36)、宮腰純(平27)
中列・上田源次郎(昭53)、竹内孝夫(平18)、小保内俊雅(平3)、田辺瀬良美(平9)、深山希望(平29)、菊池友允(昭47)、藤田明(昭和55)
後列・橘昌利(平27)、伊藤夏織、長谷川浩(平元)、高西喜重郎(昭61)、石川てる代(昭53)、高島常夫(昭48)
(上田源次郎)

開催予定の行事を
お知らせください

学会、研究会、各地のものはな会、クラス会など、種々の行事開催予定と、その内容について、同窓会事務局へお知らせください。本会報に掲載いたします。なお、本会報の発行日は1月、5月および9月です。

第94回千葉医学会 学術大会

日時：平成30年10月10日(水曜日) 16:20 ~ 17:30
会場：千葉大学ものはな記念講堂

招待講演

「研究マインドを持った呼吸器臨床
- 病態生理から分子病態へ -」

演者： 巽 浩一郎 先生 (千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学 教授)
座長： 小林 欣夫 先生 (千葉大学大学院医学研究院 循環器内科学 教授) 巽 浩一郎 先生



*本講演会は日本医師会生涯学習講座(0.5単位 CC:0)として承認されています。

参加手続き及び費用は不要

多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます

問合せ：千葉医学会

〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1 千葉大学医学部・ものはな同窓会館内

TEL: 043-202-3755 FAX: 043-202-3757

e-mail: info@c-med.org URL: http://www.c-med.org

クラス会

みふみ会 (昭32)

卒後60周年クラス会

平成29年10月21日(土)
千葉市京成ホテルミラマーレにおいて開催された。定員80名で入学したわがクラスは、当時50歳を過ぎた林璋氏(元駐佛武官・陸軍大佐)通称オンケルを擁す



る特異なクラスであったが、既に卒後60年ともなれば、半数は鬼籍に入り、出席者は20名となってしまった。その中、仙波恒雄君は息女、谷川久一君は夫人同伴で22名がカメラに収まった。全員揃ったところで写真撮影、その後二つのテーブルを囲んで食事をしながら旧交を温めた。僧侶である隆克朗君の発声でまず物故者の黙祷、次いで、はるばるアメリカ・ピッツバリー

グから参加した元山悦郎君による乾杯。千葉大学医学部の近況をビデオ上映で紹介、その後次々に各人が近況・健康状態などの報告をした。今回を一応の区切りとしてクラス会をやめるか、継続するかを皆に相談したところ、来年も行うことに決定した。なお、在カナダの林達幸君からはメールを、李(王)真麗さんからは電話を貰って、元気でいるから皆よろしくとの事であった。この会の様子をDVDに収録したものが、るのほな同窓会長済陽高穂先生の知るところとなり、記念メダルと感謝状が贈られてきた。おかげで老生もまた元氣を出して今年も幹事役を引き受けるつもりである。改めて済陽会長に感謝します。なお、幹事は隆克朗、村上和両君と三枝一雄である。

写真右から
前列…中村常太郎、武田(佐藤)三代、木村(大森)広子、谷川久一、本山悦郎、仙波恒雄、戸川清、竹内達二列目…吉田豊、布川武男、平嶋毅、藤本茂、矢野和之、高倉永政、野口照義三列目…仙波息女、谷川夫人、隆克朗、村上和、前田昌利、大久保恵司、三枝一雄 (三枝一雄)

さんご会 (昭35)

今年の昭35卒のクラス会 (通称、さんご会) は平成30年3月4日、恒例の場所を変え、東京ステーションホテル4階のアトリウムで行われた。高齢化が進む中、もっと交通の便の良い



東京ステーションホテルアトリウムに保存されている旧東京駅の煉瓦壁の前で

所にして欲しいという希望が強かったためである。会場は天井が高く、大きなガラス張りの窓に面した明るい部屋で出席者22名のクラス会にはもったいないほど広い部屋であった。

正午、幹事代表、三橋稔君の挨拶に次いで、大井利夫君の乾杯で開会となった。最初に昨年ご逝去された岡村隆夫君、西川侃介君、小林康弘君のご冥福を祈り黙祷を捧げた後、当初より本会の会計の大役を続けてきた神田敬君より会計報告がされ、今後、三橋稔君へ移行することが決まった。なお、全員が男性の平均寿命を超える年齢のため、業務の簡素化を行い、クラスとしての慶弔の儀は略し、会費残額は今回を含めた今後のクラス会の集まりの一助に使用させていただくことになった。

引き続きの宴会は、ホテル推薦の美酒でフランス料理を楽しみ、しばらく歓談に耽った後、各自の近況報告に移ったが、全員何らかの形で現在も医療に携わっており、戦前育ちの勤勉さを垣間見る思いがした。また、ヨット一艘を千葉大学ヨット部に寄贈した故西川侃介君の話、現在、全国の小中学校の身体検査

の基準となっている村田式測定法(特許料は頂いていないそうです)の話、西まわり東まわりで世界一周旅行を楽しんでいる話、時価1億円?の絵画を手に入れたという話も出て話題は弾んだが、予定の3時を大幅に上回ったため、来年も幹事長を三橋稔君にお願いし、3月3日(日)同じ場所を顔合わせることを約し閉会となった。

終了後も去りがたい人も多く、ホテル内のカメラでお酒を酌み交わしながらの2次会で話を続けることとした。当日は2日前の春一番も去って、快晴の暖かい一日であり、よく遊び、そして、よく学んだこともあった学生のころを思い出し語り合うのにふさわしい楽しい一日であった。

写真右から
前列…小山明、成田静子、徳江幾郎、藤村真示、野口力、貞永嘉久、佐伯陳哉、神田敬、谷嶋つね
後列…大井利夫、横山孝一、村松準、佐藤甫夫、三橋稔、鈴木茂、佐藤重明、河野宏、高橋徹、村田光範、増田善昭、中田益允、永田一郎 (増田善昭)



42・48クラス会
(昭42入学・昭48卒業)

当クラス会はここ数年毎年のように開催しており、今年は2月18日(日)にホテルスプリングス幕張で開催し33名が出席しました。まず年末にご逝去された上村重明君のご冥福を祈り黙

持をささげました。次いで徳久剛史君から千葉大学の現況と将来について報告がありました。彼は2014年に学長就任以来、世界に輝く未来志向型の総合大学を目指して改革をすすめ、2016年に国際教養学部を創設し、国立大学の一般入試志願者数は3年連続1

位となり、かつ合格辞退者も激減するなど着実に成果を上げています。悩みは国からの交付金の減額による財政面の厳しさであり、あらためてSEEDS基金への寄付を呼びかけていました。また医学部本館を野球場の敷地に建替え、病院と連結させる計画も決まったとのこと。学長としてのさらなる活躍を期待しています。次いで梅田透君のピアノの演奏に聴き惚れた後、各自から近況報告がありました。我々はすでに古希を迎えた、あるいはこれから迎える年となり、それぞれが医業以外の生き方を模索、実行しているようでした。また、旭俊臣君が執筆し出版したばかりの著書「早期発見+早期ケアで怖くない、隠れ認知症(幻冬舎)を皆に贈呈していただきました。認知症は身近な問題であり、今後の診療や自分の生き方の参考になる内容で感謝に堪えません。二次会での談笑も尽きませんでしたが、来年も元気に再会することを約束しお開きとなりました。

写真右から
前列：坂庭操、片桐博子、保阪亜莉沙、河野陽一、徳久剛史、高圓博文、大内美南、千見寺ひろみ、山本義二
二列目：千葉次郎、庭野一、猪股弘明、小林道生、上野正純、下山一郎、安野憲一、野口哲夫、伊藤よしみ、南昌平、長谷部正晴、川口英昭三列目：竹中正治、一木昇、大橋教良、菊地紀夫、旭俊臣、中村孝雄、広瀬彰、梅田透、森山紀之、金塚東、安東昌夫、木村秀樹
(山本義二)
*本号15面にて紹介

各地のほな会 開催のお知らせ

君津・木更津のほな同窓会
平成30年5月24日(木)
18:30~
東京ベイプラザホテル
講演 千葉大学大学院医学研究院
臓器制御外科学
教授 大塚 将之 先生
「肝胆膵疾患に対するわれわれの取り組み」

静岡のほな会
平成30年7月1日(日)
14:00~
(懇親会 17:30~19:00)
ホテルセンチュリー静岡
講演 西台クリニック院長
千葉大学のほな同窓会
会長 濟陽 高穂 先生
「晩期癌の患者に対する食事療法の応用」

信州のほな会
平成30年7月22日(日)
15:00~16:00
(懇親会 16:00~18:00)
ホテルメトロポリタン長野
講演 千葉大学大学院医学研究院
整形外科学
教授 大鳥 精司 先生
「腰痛疾患の診断と治療」

前総務大臣
高市早苗 衆議院議員 講演会
リスクの最小化に向けて
—医療機関におけるリスク管理など—

近年、医療従事者ひとりひとりのリスク管理が厳しく問われるようになってきました。このたびは自民党サイバーセキュリティ対策本部長の高市早苗衆議院議員(前総務大臣)を千葉大学にお招きし「リスクの最小化 —医療機関におけるリスク管理など—」についての講演会を開催します。お時間の許す限り、ぜひともお問い合わせのうえご参加ください。



日時 平成30年6月4日月
場所 千葉大学医学部附属病院 3階
ガーネットホール
講師 高市 早苗 先生

SCHEDULE
15:45.....開会の辞 徳久 剛史 先生(千葉大学学長)
15:50~16:50...講演:「リスクの最小化に向けて —医療機関におけるリスク管理など—」
高市 早苗 先生
座長: 山本 修一 先生(千葉大学医学部附属病院長)
16:50.....閉会の辞 中山 俊憲 先生(千葉大学大学院医学研究院長・医学部長)

事務局(問い合わせ先): 千葉大学大学院医学研究院整形外科学
TEL:043-226-2117(内線5303, 5304)

研修プログラム

呼吸器内科学

千葉大学大学院医学研究院
呼吸器内科学

教授 巽 浩一郎 (昭54)

るのほな同窓会員のみなさまはすでにご存知かと思いますが、本年4月より医師育成の新しい研修プログラムがスタートしました。厚生労働省による「専門医のあり方に関する検討会」最終報告(2013年)を受け、日本の専門医の育成と認定を統一的に扱う第三者機関として2014年日本専門医機構が発足、国民の信頼に値する「専門医」の育成を統括、審査機関としての役割を担っています。この機構のもと19領域の学会が専門医研修制度を新たに構築しました。内科系は日本内科学会が「内科専門医」取得のための新内科専門医制度を整え、その制度下に千葉大学病院内科専門研修プログラムが編成されました。

簡単に説明をいたしますと、初期研修を終えた医師はその後の3年、「専攻医」として「専門医」取得の条件となる「研修到達目標」をこのプログラム研修のなかで達成することになります。内科専門研修では総合内科・消化器・循環器・内分泌・代謝・腎臓・呼吸器・血液・神経・アレルギー・膠原病および類縁疾患・感染症・救急の13領域すべてに「研修到達目標」があり、とりこぼすことなく症例を経験しなければなりません。

千葉大学病院ではこの内科専門医研修、自身が選んだ診療科での専門的な研修、その両者を自分の希望によって自由に組み立てられるようプログラムを作成しました。徒に「研修到達目標」を達成するだけに時間を費やすことのないよう、指導医は1対1で卒業3年から5〜6年という大事な時期を丁寧に指導します。メンターとしての役割も担い、指導医の能力、医療に対する姿勢は直接若い研

修医の成長に影響することになるはず。このプログラムの実行には、これまで千葉大学病院研修で成長してきた指導医の質の高さが欠かせません。さらに各診療科間、大学と研修連携病院間、大きな連携、細やかな連携が必須です。るのほな同窓会員同志の結束力がここにも生きてくるはずで、この場をお願ひする次第です。

専門医研修は導入されたばかり、今後、この研修を経て育った医師が、内科診療の幅広い経験で視野を広げ、患者さんに信頼され、頼られる医師となることを見守っていただきたいと思っています。

呼吸器内科では、これまでと変わらず「呼吸器専門医」育成に力を尽くしたいと思っています。もとより、呼吸器内科の担当する領域、病態は広く、大きく捉えても慢性閉塞性肺疾患(COPD)、気管支喘息、呼吸器感染症(肺結核を含む)、胸膜中皮腫、肺がん、急性肺障害、肺血栓塞栓症、肺高血圧症、睡眠時無呼吸症候群、アレルギー性呼吸器疾患(過敏性肺炎、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症

など)、間質性肺疾患があり、これらの病態は合併もあり得るし、また全身性疾患の部分症である可能性もあります。呼吸器病態が悪化、進行すると呼吸不全に陥ります。これには急性と慢性がありますが、呼吸不全では臓器相関が問題になります。呼吸不全は中枢神経系、血液系、腎臓、消化管、心臓、肝臓など多くの他臓器に影響を及ぼします。また、その逆の場合もありえます。医師育成の新しい内科専門医研修プログラムを、呼吸器内科医を育てる過程にどう位置づけるか、組み入れるか。これまでに千葉大学呼吸器内科が長い時間をかけて作り上げてきた「呼吸器内科専門医」育成プログラムを再考し、優れた呼吸器内科医を育てる最良の方法を、教授であるわたくしはもちろん、病棟で、外来で、研究室で、スタッフ一同挑戦をしています。

大学病院でこそ経験する「稀少疾患・難治性疾患」があります。肺動脈性肺高血圧症(PAH)、慢性血栓塞栓性肺高血圧症(CTEPH)、肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症(PVOD/PECH)、リンパ管筋腫症(LAM)、オス

ラー病(遺伝性出血性末梢血管拡張症)(HHT)、肺胞低換気症候群(AHS)、Ehler-Danlosアンチトリプシン欠乏症(AATD)など、呼吸器内科医は疾患の多様に自分の理解がまだまだ及ばない、学びの足りなさを感じる謙虚な心構えが大切です。

病気には病因(誘因)があり、病的過程が修復/回復しえなかつた結果が目の前にある、臨床は最終的な表現型をとらえて診断しています。

病因→呼吸器疾患は環境を映す鏡である、と言われていきます。病気は何からの未知の遺伝的素因の上に環境要因が加わって成立する場合が多いのが実際です。呼吸器内科研修プログラム

の根幹は、いろいろな呼吸器病態を「呼吸器の構造と機能」の観点から学ぶこととしていきます。「構造と機能」には組織そして細胞レベルでの理解が含まれます。これまで治療は表現型の緩和(現れた症状を緩和するような対処方法)をま

ず目指してきましたが、生命科学分野の発見に裏付けられた医学の進歩のめざましさ、近年の病因論から考案された治療の数々には驚くべきことが多く、分子標

的治療を始めとして、病因論に迫る治療法の開発は日進月歩しています。より良い医療/医学の達成には、病因論から考える臨床、研究マインドを持つた臨床が必要です。千葉大学病院呼吸器内科は、より専門的に(研究的に)、明日の医学を作りだすべく診療をしていきます。

このように医学を科学として捉え、その進歩に尽くす必要がある一方で、患者さんをひとりの生きる人間として捉える必要があると思います。慢性疾患は患者自身の中では長い歴史をもっています。医学生、初期研修医は、どうしても時間の制約の中で患者に接するため、その歴史の中の一断面を診ることに なります。後期研修に移行して、入院/外来を担当し、より深く患者に接するようになると、患者の長い病歴が少しずつ理解できるようになってきます。病気の進行には病気自体の進行と共に生理現象としての加齢が加わってくることも多く、複合的な捉え方が大事となります。

同じ病名診断でも、臨床経過は患者さんにより千差万別、緩徐進行型と急速進行型があり、同じ治療を施行した時、その反応性が異なる、ある時点で有効であった治療が、病気の後半戦になると治療の有効性が低下する、そういうことはよく経験します。呼吸器疾患は多様性にあふれていますが、さらに人間が多様性にあふれている生き物であるため、一様に捉えることができません。難しい。しかし、医療、医学、臨床と研究に取組むおもしろさはそこにあります。難しいけれど、さらに広く新しい知識を求め、理解を深める。医療人は、どんなに学んでも完成された存在になれないのではないか、不完全なままでの世界から離れることを自覚しつつ、学ばなければならぬ、そう思っています。



お詫びと訂正

177号
28面

おくやみ欄

内田由起夫・内田由紀夫

慎んでお詫びと訂正をいたします。

船橋市立医療センター

院長・千葉大学医学部臨床教授

丸山尚嗣(昭57)

船橋市立医療センターは昭和58年に開院し、現在は人口63万人の市立基幹病院として、29の診療科を標榜し、地域の医療機関等と密接に連携しながら救急医療を主体とする急性期医療および癌治療その他の高度医療を提供しています。地域医療支援病院、三次救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、臨床研修病院(JCER認定)等の指定を受けており、急性期の総合診療機能を有する地域の中核病院



となつています。病床数は449床、常勤医師数は122名(うち指導医数56名)、初期臨床研修医23名です。

臨床研修においては、三次救命救急センターを併設しているため、高エネルギー外傷や心肺停止などの重症症例をはじめ豊富な症例を経験できます。またER型を採用しており、研修医当直は、夜間・休日の救急外来における「First touch」を主としており、問診・検査を行い鑑別を考え、指導医からの手厚いフィードバックを受けます。各科の垣根が低い

ためコンサルトしやすく、幅広い視野を持つことができようになります。

教育プログラムとして、毎月臨床症例検討会や救急医療をテーマに指導医が工夫をこらした臨床研修講義を行っています。また臨床病理検討会を開催し研修医が主体的に参加し討論を出来るように工夫しており、さらに、研修医全員がAHA公認のBLS・ACLSコースや緩和ケア研修を受講するシステムを構築しています。医療安全管理室を始め多くの委員会が、安全かつ安心して研修できる環境の整備に努めており、また悩みや疑問点などを直接

相談できるメンター制度を導入しています。当センターには教育熱心な医師が多く、知識や基本的な手技を丁寧に指導します。指導医が見守る環境の中で研修医自身の意見を尊重して自ら考える力を育むようにしています。

【後期研修】新専門医制度において、外科、小児科、麻酔科、救急科の4領域において当院が基幹施設として承認されている他、他領域についても千葉大学や他大学の連携施設となっており、各専門研修ならびに専門医の取得が可能です。

最後に当センター在籍のるのほな同窓会員を紹介いたします。

院長：丸山尚嗣(昭57) 副院長：多部田弘士(信州大・昭54)、丹羽淳子(昭55)、三村雅也(昭58) 診療局長：水本英明(昭63) 呼吸器内科：中村祐之(平元)、中村純(平13)、藤田哲雄(平18)、小谷野友里(平26) 消化器内科：安藤健(平5)、小林照宗(弘前大・平9)、関厚佳(新潟大・平12)、古賀邦林(平27) 心臓血管センター長：稲垣雅行(昭55) 循環器内科：福澤茂(昭57)、沖野晋一(平10)、岩田曜(平14)、内山貴史(平18)、丘慎清(平21) 代謝内科：岩岡秀明(昭56)、下山立志(平12)、中村俊介(平19) 腫瘍内科：平野聡(平6) 小児科：佐藤純一(昭62)、坂井美穂(埼玉医大・平4)、力石浩志(平17)、竹本直輝(平22)、飯

島雄太(平27) 外科：田中元(弘前大・昭60)、貝沼修(昭61)、松本泰典(平20)、大島董(平27)、桑山直樹(平27) 消化器外科：夏目俊之(神戸大・平4) 乳腺外科：松崎弘志(筑波大・平4) 整形外科：高瀬完(平元)、鮫田寛明(滋賀医大・平3)、染谷幸男(弘前大医・平8)、沖松翔(平25) 脳神経外科：新美淳(平18)、上田浩太郎(平28) 心臓血管外科：茂木健司(昭63)、櫻井学(平10)、坂田朋基(平24)、橋本昌典(平26) 皮膚科：宮川健彦(平13)、井関梢(平26) 泌尿器科：佐藤信夫(昭55)、金尚志(平24)、日野大地(平28) 眼科：小林晋二(平12) リハビリテーション科：池之上純男(昭63) 放射線治療科：有賀隆(平元) 麻酔科：田中敦子(昭61)



研修医だより

免疫学の幅広さと奥深さを感じて

千葉大学医学部附属病院 アレルギー・膠原病内科

熊谷 崇 (平25)



私は2013年に千葉大学医学部を卒業し、成田赤十字病院で2年間の初期研修を行いました。初期研修2年目に千葉大学アレルギー・膠原病内科への入局を決め、2015年度は千葉市立青葉病院、2016年度は松戸市立病院(現・松戸市立総合医療センター)、2017年度より千葉大学医学部附属病院にて後期研修を行いました。私がアレルギー・膠原病内科への入局を決めたのは、初期研修で内科を始めとした各診療科をローテートする中で免疫学の幅広さと奥深さを感じたからです。病態の背景に免疫が関与する疾患が多く、免疫学を掘り下げることが様々な疾患の理解に繋がると考え

ました。また、膠原病を始めとした自己免疫性疾患は全身性の症状を呈することが多く、その診断や治療にあたってはジェネラリスト的な思考が必要とされることもアレルギー・膠原病内科に興味を持った理由の一つです。診療科としては他の内科に比べると規模は小さいですが、その分先輩・後輩との距離も近くアットホームな雰囲気であることも千葉大学アレルギー・膠原病内科の魅力です。2年間の関連病院での研修では、アレルギー疾患や膠原病だけでなく、その診療に必要な内科医としてのスキルを学ぶことに重点を置きました。千葉市立青葉病院では、呼吸器疾患や消化器疾患、循環器疾患、感染症などの基礎を学ぶことができました。初期研修医への指導も積極的に行っている病院であり、切磋琢磨し合い研修に励むことができました。松戸市立病院で

は、病棟での診療だけでなくリウマチ・膠原病専門外来や総合診療科外来を担当させていただき、非常に多くの症例経験を積むことができました。2017年度は千葉大学医学部附属病院アレルギー・膠原病内科で病棟医として診療を行いました。大病院は市中病院と違い、より高い専門性が必要とされる症例が多く、アレルギー・膠原病内科医として必要なスキルを今まで以上に身につけることができました。毎週水曜日に行われるカンファレンスでは、指導医の先生方と各症例についてディスカッションを行い診断や治療方針について相談しています。大病院ならではの先進的な治療や、他科との協力の上で成り立つ高度な医療など、今までにない経験をj得るjことができました。その他にも関連学会での発表や学生への指導なども行っており、刺激的で有意義な日々を過ごすことができています。今後はこれまでの経験をjもとに、臨床を続けながら基礎研究や臨床研究にもj励んでいくj予定です。後期研修で得た経験を今後のステップアップに活かしていきたいと考えています。

第45回 日本脳科学会 開催

2018年11月10日(土)～11日(日)

亥鼻キャンパスにて

千葉大学こどものこころの発達教育研究センター長
第45回 日本脳科学会 大会長 清水 栄司 (平2)



千葉大学の亥鼻キャンパスにて、歴史ある第45回日本脳科学会大会を開催させていただくことになりました。

今回の大会のテーマは、「脳と心の健康教育から治療まで」といたしました。脳と心に関する、教育学、心理学、脳科学、神経科学、医学と幅広い分野の方にご参集いただければ幸いです。

特別講演として千葉大学に2017年、旧第二解剖学と第三解剖学を統合して生まれた機能形態学の教授にご就任された山口淳先生から「ALS研究の進歩」(仮題)というテーマでお話しいただく予定です。

私も先生方のご講演を今から楽しみにいたしております。千葉大学亥鼻キャンパスでお会いできることを心待ちにいたしておりますので、何卒よろしくjお願い申し上げます。

第49回日本消化吸収学会総会

NST 専門療法士の単位取得 [5単位]

異分野融合で展開する消化吸収学

2018年11月17日(土) 会場: オークラ千葉ホテル

Scientific Advisor 安西 尚彦 千葉大学大学院医学研究科薬理学 教授

加藤 直也 千葉大学大学院医学研究科消化器内科学 教授

事務局長 千葉 哲博 千葉大学大学院医学研究科消化器内科学 講師

【事務局】千葉大学大学院医学研究科薬理学教室 〒260-8670 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1

【運営事務局】〒112-0005 東京都文京区水道2-6-1 振替専ら コミュニケーション事業部内 Tel 03-3814-7112 / Fax 03-3814-6904 http://www.keiso-comm.com/jnda49

後援: 日本薬理学会、日本生理学会

追 悼

佐藤壹三先生を偲ぶ

(医) 同和会 千葉病院 院長 小松尚也 (昭63)



佐藤壹三先生は昭和62年3月に千葉大学精神医学教室の教授を退官されました。最終講義の際に学生の謝辞を読ませていただきました。それ以来のご縁であり、同門の諸先輩をさしおくこと、大変恐縮ではあります。謹んで追悼の文章を書かせていただきます。

私は平成28年、臨床精神医学雑誌に「佐藤壹三評伝」を上梓しました。そのお礼にと、先生は、私ほか関係した数名の後輩に対して、翌平成29年1月に宴席を設けてくださいました。佐藤先生は専ら日本酒をたっぶりお飲みになり、我々と同じ量の料理を召し上がり、さらに同じ速度で召し上がっているのにもか

かわらず、2時間以上、ほとんどお一人で話をされていました。それほどお元気なお姿でした。

佐藤先生は、昭和21年9月に千葉大学医学部を卒業され、昭和23年9月に千葉大学精神医学教室に入局。昭和32年に銚子市立病院に赴任されました。さらに昭和42年に国立国府台病院に院長として赴任されて、同病院副院長を経た後、昭和51年7月、千葉大学医学部精神医学教室5代目教授として戻られ、退官後、千葉県立衛生短期大学の2代目学長を全うされました。各々の立場で、大変な重責を果たされてきました。このように表に出る御略歴を記しても、佐藤先生の残された業績および功績に決して決して語りつくせぬ思いです。

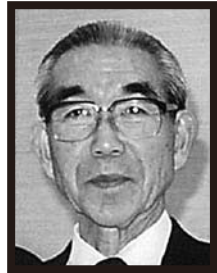
平成29年6月に「銚子の海と街に感謝する会」を開催するに当たり、本来は佐藤先生を囲んで開宴する予定でありましたが、佐藤先生はそのとときに病に倒れられていました。ご自宅療養中に、時機を見計らってお見舞いに伺いました。やや頼はこけ、声量は落ちたものの、穏やかな表情と語り口はいつもの佐藤先生でした。「倒れるとね、皆に迷惑かけてしまうよね。でも動けなくなるとね、こりゃいかんと思つてね、懸命に電話機までバックストロークをかけたんだよ」と軽いユーモア交えて話されていました。その時点ではまだ佐藤先生のご快癒を皆信じて疑っていませんでした。

しかし、その願いも叶わず、平成29年10月25日午前0時45分に、佐藤壹三先生は永眠されました。佐藤先生からはたくさん科医長であり、かつ昭和38年に「銚子市精神衛生都市宣言」を市議会に提出し、日本、いや世界の精神医療の最先端に名乗りを上げました。そのような佐藤先生を慕って、銚子市立病院には県内の多くの精神科医師が、同院が平成20年に閉院するまで勤務していらっしゃいました。

佐藤先生からはたくさん科医長であり、かつ昭和38年に「銚子市精神衛生都市宣言」を市議会に提出し、日本、いや世界の精神医療の最先端に名乗りを上げました。そのような佐藤先生を慕って、銚子市立病院には県内の多くの精神科医師が、同院が平成20年に閉院するまで勤務していらっしゃいました。

故村山智先生を偲んで

千葉大学大学院医学研究薬理学 教授 安西尚彦 (平2)



千葉大学名誉教授村山智先生は、平成29年11月25日にご逝去されました。享年91歳でした。

先生は、大正15年5月6日に東京都でお生まれになりました。昭和26年に千葉医科大学を卒業され、千葉医科大学附属病院でインターン研修の後、翌年に小林龍男先生が主宰される千葉医科大学薬理学の研究生となられました。その後助手、助手、講師、助教授を経て、昭和45年に第4代薬

そのありようです。千葉大学精神医学教室の最長老であり、日本の精神医学界の重鎮でありながら、逝去されるまでそのような姿勢を崩さなかった佐藤先生は、いつまでも我々が永遠に目標にする精神科医なのです。

用薬について多くの研究を行なわれました。今日でも統合失調症治療薬として使用されるフェノチアジン系薬物の作用機構の解明に貢献されました。昭和35年から3年間イリノイ大学に留学され、脊髄や自律神経節に関する電気生理・薬理学的研究を行なわれ、脊髄虚血による神経機能障害の実験モデルである「虚血性脊髄性固縮」を確立されました。同モデルは、筋硬直に対する筋弛緩薬の作用評価や中枢神経保護薬の開発に広く利用されることとなり、高い評価を受けております。また、ニューキノロン系抗菌薬と非ステロイド系抗炎症薬の併用時に薬物相互作用によって痙攣等の副作用が惹起されることが社会問題化した時代に、併用によっておこる中枢興奮機序の解析から、いち早く副作用発現の警鐘を鳴らされ、社会的にも多大な貢献をされました。

先生は、大正15年5月6日に東京都でお生まれになりました。昭和26年に千葉医科大学を卒業され、千葉医科大学附属病院でインターン研修の後、翌年に小林龍男先生が主宰される千葉医科大学薬理学の研究生となられました。その後助手、助手、講師、助教授を経て、昭和45年に第4代薬

先生は日本薬理学会におきましても、評議員として多くの常置委員を長年務められると共に、昭和50年に関東部会を主催され、学会の発展に貢献なさいました。

先生のご趣味は俳句であり、古くは中村草田男先生に師事され、昨年70年の歴史を閉じた「萬緑」というグループに所属されるところに、千葉大学医学部の俳句の会「やはぎ会」の主要メンバーとして活躍されました。また長年に亘り新聞の俳句欄「房総文演」の選者として活動しておられました。

先生のご葬儀は、大学関係者や弟子たちが参列し、しめやかに執り行われました。村山智先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。



渡辺 武先生を悼む

千葉大学のはな同窓会

名誉会長 伊藤 晴夫 (昭39)



が、渡辺先生のご貢献は素晴らしいものがあつたと聞いております。また、11年から15年まで日本プライマリ・ケア学会会長を務められました。

本会名誉会長渡辺武先生におかれましては、平成29年11月1日に天に召されました。謹んで哀悼の意を表します。享年92歳と天寿を全うされたとはいえ、まだまだお元気でしたので痛切の極みです。

先生は2003年より2007年まで2期4年間、のはな同窓会会長を務められました。先生は昭和27年に千葉医科大学を卒業し第二内科に入局されました。36年に船橋市に医院を開業され、45年に船橋市医師会理事、49年から平成10年まで千葉県医師会理事(10年間は千葉県医師会長)を務められました。千葉県医師会長の後任には藤森宗徳先生、井上雄元先生、さらに現在の田畑陽一郎先生に引き継がれてきております。現在では千葉県医師会医学部が盛況となるなど活発な活動をされています。

渡辺先生が会長の際に、のはな同窓会では会則や各種委員会の大幅な見直しが行われました。庶務・会計・事業の責任者、参与および会長の指名者よりなり合意形成を目指す総務会の創設、甲乙会員の一本化、学生会員の開設、名誉会員の推薦基準の制定、地区支援経費を計上したことにより各地区会報が活発に出版され地区の活動が活発になったことなどであります。現在ののはな同窓会の組織を支える基本が整えられたわけであります。

私は渡辺会長の下で副会長として2年間にわたり補助してきましたが、先生のお元氣さと熱意には感銘を受けておりました。先生はご自分の欠点は多弁だと言っていました。先生が司会をされるのはな同窓会の常任理事会や役員会などでは面白い雑談も交えて

座を和やかにしておられました。特筆すべきは、先生は学生からの強い要望もあり新同窓会館の早期の建設を提案されたことでした。この問題は種々の事情により直ぐには発足しませんでした。会長を引き継ぎました私へ残されました。建築後60年近くを経て老朽化し崩壊の危険がある同窓会館の新営が発端となり「新のはな同窓会館設立(千葉大学医学部創立135周年)記念事業」が発足致しました。この名称からも明らかのように、135周年記念事業が始まったわけであります。医学部長・医学研究院長、附属病院長、事務長をはじめとする教職員の皆様方のご協力も得て、事業会の発足に至りました。

しい問題も多々ありました。が渡辺先生からは適切なご助言を幾度となく戴きました。先生、これまでのご尽力

小野清四郎君を悼む

ボルチモア在住 中澤 弘 (昭31)



去る12月3日、級友小野清四郎君が他界されました。

小野君は我が三二会の中

とご指導本当に有難うございました。どうか安らかに眠り下さい。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

心として、過去六十余年の長きに亘り、年に一度の家族を含めたクラス会を始め、同級生の消息などをお知らせくださって、私たちの要となつて活動を続けてくださいました。これは本

当の意味のボランティア精神で、私達は皆、小野君の長いお骨折りに感謝して参

学友小野清四郎君の逝去を悼む

鹿原 昭一 (昭31)
上原 すゞ子 (昭31)
加藤 繁夫 (昭31)
北川 定謙 (昭31)

学友小野清四郎君が平成29年12月3日逝去された。小野君は我々昭和31年千葉大学医学部を卒業した仲間1人で、我々は同級会の名称を「昭31会」として卒後の人生を語り合ってきた仲間です。

卒業時に『潮音』と題する卒業記念感想文集をまとめた。また、卒後50周年記念号をとりまとめました。そしてこの間毎年1回クラス会として回を重ね、それぞれの生きざまについて情報交換してお互いの交流を深めてきました。

小野君は昭和6年東京江東区に生まれ、旧都立三中から旧成蹊高校一年を経て、我が医学部を卒業し、大学院医学研究科(循環器病学)を終え博士号を得、都立墨東病院内科勤務後、江東区にて内科及び循環器専門医として開業、昨年開業五十周年を迎えました。1994年には環境庁長官賞を受賞されました。

この間、小野君は奥様ご同伴で、国内外数多くの旅行をなされ、立派な写真と数々の思い出を二冊「わが旅と人生」と題して、私達クラス全員に送って下さり、彼の著による「行雲の20年余は、永久幹事として集まりの取り纏めをしてくださいました。そして、おそらく各年の会ごとに記念写真をとり、文章を添えて「のはな」に投稿してくれていたと思います。また、メンバーの消息の交差点として、特に弔事について対応してくれていました。

卒業時の『潮音』への小野君の投稿は「医学部生活の想い出」として、自らの心臓神経症体験による「死の恐怖」から、これからの医師として患者にどのよう

を築くべく開業に踏み切った。そして彼の几帳面な性格を十分に發揮して、地域の医療に献身。開業40周年に当たり、ご子息も一人前の医師となつたところから、そろそろ世代交代の時期と考えられたとのこと。なお、平成15年にたまたま自分で肺の早期がんを発見し、同12月左下肺葉切除を受け、その後の13年間は健康な生活を続け、ご夫妻で海外旅行を楽しまれたとのことであった。平成28年11月左肺に水がたまり慶応病院の診察を受けて、がんの再発が分かったが、積極的医療を望まず在宅での医療を選択して、平成29年12月人生を締めくくつたとお知らせをいただいた。

この間、クラス会のお世話一切を引き受けてくれた。いたうえ、仲間の社会貢献の実績などについても常に気を配っておられ、「おのはな同窓会」への情報提供をはかつてくださった。私（北川）なども仲間とちよつと違つた「医療行政」の道を選んだところから、常に気を付けてくれていて、平成27年度の「おのはな同窓会賞」に推薦をするなどの労をとつてくださった。

最後に、小野君の仲間への大きな支援と「おのはな活動」への貢献を記して、同君の逝去への心からの冥福を祈るものです。

なお、表記4人は3月11日の「小野君を偲ぶ会」に出席した昭31会員です。また、この他、既に他界された会員の御夫人も数名参加されておりました。

同窓会員の逝去に際し、
弔文の掲載をご希望される
方は、同窓会本部へ原稿を
お送りください。

同窓会員著書の紹介

日和佐 隆樹（東京大理・昭50）著 生化学でわかる体と健康

ブックウェイ 定価1204円（税別）

伊藤 晴 夫（昭39）



千葉大学大学院医学研究
院准教授の日和佐隆樹先生
は昨年12月24日に右記の本
を出版されました。先生の
研究は素晴らしく、大きな
研究費を獲得されているこ
とには予てより尊敬してお
りました。

最近では百歳以上の方が
急増しており、人生百歳時
代と言われ出しました。医
療の進歩や衛生環境が整つ
たこともありませんが、健康
に気を使う人が増えてきた
為もあると思います。健康
に関する書物も多く出版さ
れています。特に食事や栄
養に関する解説が多いよう
です。アルコール、コー
ヒー、コレステロールなど
健康に良いと言われたり悪

いと言われたりしていま
す。このように専門家と称
する人々の意見もバラバラ
のように感じます。特に興
味あることの一つは、以前
には悪者扱いされていた
コーヒーが最近では健康に
良い影響を及ぼすと云われ
ています。

これまでは主に医師や栄
養士などが健康に関する著
書を著わしてきたようで
す。日和佐先生は医師では
なく、長い間、生化学一筋
で研究を続けてきた生化学
者であります。生化学の立
場を理解しようとするとは
他の専門家とは違った理解が
可能となるのだと思いま
す。生化学は生命活動を分
子、原子レベルで理解する
学問であり、DNA鑑定に
代表されるような分子生物
学や遺伝子工学も生化学に
含まれます。例えばDNA
鑑定で個人が特定されれば、
それが間違っている確

率は4兆7千億分の一と云
われます。このように分子
レベルで理論的に説明でき
る科学的証拠は重要です。
状況証拠とは異なります。
このように本書では生化学
を基本に病気や健康につ
いて、さらには日常生活の
不思議について書かれてい
ます。内容は、目次から窺
い知ることが出来ますので
目次を記します。

第三章	熱編
第四章	バリアー編
第五章	油は栄養源編
第六章	平衡編
第七章	骨格編
第八章	運動編
第九章	活性酸素編
第十章	神経編
第十一章	菌編
第十二章	ドーパミン編
第十三章	食物繊維とコレステロール編
第十四章	雑談編

旭 俊臣（昭48）著 早期発見＋早期ケアで怖くない 隠れ認知症

幻冬舎 定価1400円（税別）

旭 俊 臣（昭48）



大学を卒業して十年間は
精神科、神経内科、リハビ
リテーション科で勤務し、
松戸市内で開業しました。
その頃から認知症の患者の
診療にかかわり35年になり
ました。平成28年第25回
*若月賞を受賞しました。

そこで、35年を振り返り
ながら本書を著す事に致し

ました。昭和46年認知症患
者は50万人でしたが、平成
27年には525万人に急増して
きました。

認知症の専門医が少ない
事と、認知症患者は医療機
関を受診することを拒否す
ることが多い為、認知症と
診断されていない患者は
250万人以上いると考えられ
ています。このような状況
下で多くの医療機関では、
認知症患者が本態性高血
圧、糖尿病、肺炎、骨折、
悪性腫瘍、脳血管障害を併
発して、外来受診及び入院

した時、診療・ケアの対応
が困難になっていきます。
私は、認知症の初期から
終末期まで数多くの患者と
その家族の方々に関わり、
多くの事を勉強させて頂き
ました。

本書では、一般には知ら
れていない「隠れ認知症」
にスポットをあて、認知症
を見抜くポイント、重症化
を防ぐためには早期にデ
ィケアを行うっていくことが重
要であることと、入院時
には入院ディケアなどの認知
症リハビリの導入により認
知症の周辺症状は軽減でき
ることを述べています。そ
して、介護者の介護負担感
の軽減をはかることもでき
るようになりました。

同窓会員の先生には本書
を一読して頂ければ、認知
症患者の診療の一助となれ
ると思いますので御高覧を
お願いする次第です。

*若月賞 農村保険振興基金
より、保健、医療の分野で
功績のあった人に贈られる
賞



野村 文夫 (昭50)、羽田 明 (熊本大・昭53)、
長田 久夫 (昭56) 編
ここが知りたい
遺伝子診療はてな? BOOK

中外医学社 定価4800円 (税別)

篠宮 正樹 (昭50)



野村文夫先生は、多職種で遺伝性疾患に取り組み道筋をつくり「チーム医療のための遺伝カウンセリング入門」(野村文夫・羽田明著 中外医学社 2007)を著した。また「日常診療のための検査値のみかた」(野村文夫・村上正巳・和田隆志・末岡榮三郎 中外医学社 2015)は750ページの大著で、諸検査を詳説、総論も読み応えがあり、私の診療室における座右の書。遺伝子検査に130ページを割いている。

その野村先生が、千葉大学医学部公衆衛生学教授羽田明先生・千葉大学医学部附属病院周産期母性科診療教授長田久夫先生と共に編著で「ここが知りたい遺伝子診療はてな? BOOK

族性高コレステロール血症を拝見しているが、200人に1人の高頻度とされ、新たに有効な治療法が出てきた。遺伝性疾患を見つけない必要が。日本医師会も「かかりつけ医として知っておきたい遺伝子検査、遺伝学的検査Q&A」(2016)を刊行。個人の遺伝学的情報にも及ぶ点で極めて慎重に扱う必要がある。倫理的な問題もふくめて大きな変革の時代に有用な書物である。

K」を2018年に刊行された。遺伝子診療総論・臨床遺伝学の基本事項・遺伝子関連検査関連事項・医療従事者として知っておくべき生殖周産期関連の基本事項・個別化医療のためのファーマコゲノミクスという章からなる。

遺伝子情報が盛んに臨床応用される時代に、医療者が持つべき知識が、56の質問に答える形で説明されている。遺伝学的検査の承諾のとり方、遺伝カウンセリングの基礎知識、遺伝子検査ビジネスの解析結果を相談されたときの対処法も述べてある。遺伝子関連検査の3種―病原体核酸検査、体細胞遺伝子検査、遺伝学的検査(こちらは依頼先の記載もある)を区別してある。

iPS細胞を用いた臓器再生や難病の原因解明などが大変なスピードで進んでいる。正確に遺伝子を編集できる手法には、ノーベル賞の呼び声が高い。私は家

また、「認知症ケアに取り組んできた先進的活動を紹介」(千葉大学医学部同窓会報のほな・近藤克則教授)等、推薦の書評やご紹介を頂戴いたしました。

さらに拙著を読まれた各方面からの講演・報告依頼など10数か所でお受けし、共著者の高杉氏は30か所以上で講演・報告を行い、ご好評をいただきました。その中で、私に対しては医師やスタッフの方々から、「もの忘れ外来をどう開くのか?相談員は?」などの質問が寄せられました。高杉氏には、自立生活支援・トライアングル支援の展開、相談員についての質問などが出されました。

そこで、より詳しく実践的に知りたいと希望される医療関係の方、そして深い関心をお持ちの介護関係・ご家族等の方々のためにも「続編」として、「もの忘れ外来」の開き方・続け方・

利用の仕方をメインに、本書をまとめました。本書が少しでも多くの読者の目に触れ、私たちの経験と提言が全国的にも広がっていくことを願ってやみません。
(はじめにより抜粋)

「目次」
序章 かかりつけ医による「もの忘れ外来」のすすめ
第1章 かかりつけ医(一般医・総合医)の出番①
第2章 かかりつけ医(一般医・総合医)の出番②
第3章 その人らしい生活と人生をつなぐ家族の支援、相談員の重要性
第4章 トライアングル支援への「要」・調整役としての「もの忘れ外来」
終章 かかりつけ医の「もの忘れ外来」
―時代が求める「課題」と成功させる「極意」について

「ラデツキー行進曲」はオーストリアの英雄ラデツキー将軍を讃えてヨハン・シュトラウス1世が1848年に作曲した曲だが、毎年1月1日夜ニューイヤークンサートでウィーン・フィルハーモニー交響楽団がアンコール曲として最後に演奏するのが恒例となっている。曲は静まり返った中で演奏される。終盤に入ると指揮者が観客のほうを向いて手拍子をとるように合図を送る。手拍子を入れるところでは、その

「もの忘れ外来」のすすめ
大場 敏明 (昭48)、高杉 春代著
かかりつけ医による「もの忘れ外来」のすすめ
現代書林 定価1300円 (税別)



「もの忘れ外来」のすすめ
大場 敏明 (昭48)、高杉 春代著
かかりつけ医による「もの忘れ外来」のすすめ
現代書林 定価1300円 (税別)

「もの忘れ外来」のすすめ
大場 敏明 (昭48)、高杉 春代著
かかりつけ医による「もの忘れ外来」のすすめ
現代書林 定価1300円 (税別)

雑文雑談

アンドレ・リュウの演奏会

石出 猛 史 (昭52)

都度指揮者が合図を送る。一方リュウの演奏会では、街中の広場が会場となっていて見せていた。観客のマネーも時宜を得ているといえる。

観客は中高年がほとんどで、いわゆるビートルズ世代といわれる人たちである。これだけの観客が若い頃からのクラシック・ファンであったとも考えにくい。歳をとってからクラシックを聴きながら浮かれまくるといふ光景を見るのは面白いものである。

音楽の起源は舞踏に伴って生じたという説がある。演奏会で観客が踊りだすというのは本来の音楽の在り方なのかも知れない。アーノンクールが指揮する楽団員は、皆緊張した面持ちで、しきりに指揮者に目を向けており、アーノンクールもムスツとした表情で指揮をとっている。これが従来のクラシック音楽の演奏会の光景である。

リュウの演奏会では舞台に巨大なスクリーンを設置して楽団の演奏が遠くからでもよく見えるようにしている。演奏会の終わりに花火を打ち上げたり、無数の風船を飛ばしたりといったサービスもする。演出家としても大変に優れた人物である。音楽は楽しいもの

胸を押さえ初老の男性は涙ぐみながら隣の妻にうなづいて見せていた。観客のマネーも時宜を得ているといえる。

観客は中高年がほとんどで、いわゆるビートルズ世代といわれる人たちである。これだけの観客が若い頃からのクラシック・ファンであったとも考えにくい。歳をとってからクラシックを聴きながら浮かれまくるといふ光景を見るのは面白いものである。

音楽の起源は舞踏に伴って生じたという説がある。演奏会で観客が踊りだすというのは本来の音楽の在り方なのかも知れない。アーノンクールが指揮する楽団員は、皆緊張した面持ちで、しきりに指揮者に目を向けており、アーノンクールもムスツとした表情で指揮をとっている。これが従来のクラシック音楽の演奏会の光景である。

リュウの演奏会では舞台に巨大なスクリーンを設置して楽団の演奏が遠くからでもよく見えるようにしている。演奏会の終わりに花火を打ち上げたり、無数の風船を飛ばしたりといったサービスもする。演出家としても大変に優れた人物である。音楽は楽しいもの

胸を押さえ初老の男性は涙ぐみながら隣の妻にうなづいて見せていた。観客のマネーも時宜を得ているといえる。

でなくてはならないというモットーのもとに、従来のクラシック音楽の演奏会様式をひっくり返してしまっ

会 員 か ら

欧州医学史巡り ―ヴュルツブルク―

杉 田 克 生 (昭54)

マイン川の両岸に開け中世からの建物が並ぶヴュルツブルクには、レントゲンがX線を発見したヴュルツブルク大学物理学研究所があった。現在はレントゲン博物館として保存されている(写真)。

博物館に入ると、レントランス正面にレントゲンの生涯をドイツ語、英語、フランス語、日本語で紹介するビデオが設置されている。その横には、1905年X線発見10周年記念とレントゲンの第60回の誕生日に贈られた記念銘板が掲げられている。大理石の板に金字で、「この建物の中で1895年彼の名前のついた放射線を発見した」と書かれている。ただし大戦時の被災の混乱後、裏板が化学実験機に使用された。

“Ohne Röntgen, Keine Medizin” 医療に従事す



レントゲン博物館

た一大革命児といつてよいだろう。リュウの演奏はYouTubeでも見ることが

レントゲン関連の資料(ノーベル賞の賞状やメダル、辞令のコピーなどが数多く展示資料とされている。館内の奥まったところに、レントゲンがX線を発見した実験室がある。長崎大学原爆後障害医療研究所長の永山雄二所長から紹介していただいた放射線科医H. H. E.教授に実験室に入れていた。当時を偲ばせる実験器具が机上に並べられている。レントゲン愛用の記録機も残されており、その上にはデスマスクならぬデ

スハンドが置かれている。レントゲンが研究に勤んだ19世紀後半は、ニュートンの古典物理学の研究が隆盛し、身近な自然現象が多く解明されだしていた。1876年オイゲン・ゴードルシュタインは陰極から出る光を陰極線と名付けた。レントンは陰極線があるガラス管壁にごく薄いアルミ箔の窓をつけ(レント管)、わずか2cmではあるがその窓を通して陰極線を取り出すことに成功した。

1895年11月8日、1m近く離れた所に置いてあった白金シアン化バリウムを塗った蛍光板が放電するたびに発光したことに気付いた。陰極線よりはるかに透過性が高い新しい放射線を発見しX線と命名した。

なお博物館に隣接して、ヴュルツブルク大学の附属病院であったユリウス・シユピターの壮大なバロック建築がある。現在はレストランがあり、フルーティなフランケンワインが味わえる。また、ヴュルツブルクはシーボルト生誕の地で、市郊外にはその記念館がある。医学史に関心のある方は是非この地の訪問をお勧めする。

原稿募集

1. 現代の医療問題について
2. 開院など近況報告
3. 会員著書紹介 など

会報発行は、年3回(1月、5月、9月)です。

次号は、平成30年9月発行予定です。

原稿は1,400字以内にて事務局まで!

締切は発行月の2か月前までに!

E-mail: info@inohana.jp

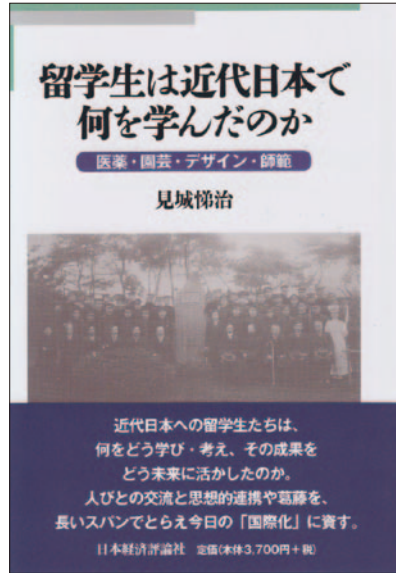
あのはな同窓会支援

『留学生は近代日本で何を学んだのか』

―医薬・園芸・デザイン・師範―

日本経済評論社 2018年3月刊 3700円(税別)

千葉大学国際教養学部准教授 見城 悌治



医学部本館の前に建っている二メートル余りの石碑の由来をご存知でしょうか。清王朝打倒を目指す辛亥革命が起きた時(1911年)、官立千葉医学専門学校に在籍していた清国留学生40名余は、赤十字隊を結成し、祖国で救命活動を行おうとしました。その申し出を受けた衛生録造校長が「赤十字は世界文明精神に適うものだ」と讚え、緊急医療講座開催などの協力支援を行ったのです。激動の東アジア近

代史の記憶を留めるきわめて貴重な歴史遺産があの石碑なのです。日本近代史を専門とする筆者は、半ば忘れられかけているこうした史実を掘り起こし、戦前戦中期の「国際交流」を再検討するたため、千葉大学の前身校の留学生について、一冊にまとめました。この拙著の六割強は、千葉医専・医大時代の留学生に関わる内容です。実は、戦前期の日本で医学薬学を学んだ中国人学生の留学先は、千葉医専・医大が最多でし

た(1945年までに受け入れた留学生総数は282名で、中国八割、朝鮮と台湾が一部でした)。そうなった理由は、第一高等学校医学部の後継となった千葉医専が、清国派遣留学生の医学薬学分野の指定校となつたためです。千葉医専は、清と日本の間で結ばれたこの協定により、1908年から15年間、毎年10名程度を受入れ続けます。その必然として卒業生数も増えていったのです。

でも「中国に西洋医学を紹介した雑誌のうち、もつとも初期段階のもので、日本千葉で発刊された」という評価がされています。冒頭の話に戻ると、赤十字隊に参加したほとんどの学生は、再び千葉医専で学びを続けました。それは、伝統医学(中医学)が圧倒的に強かった中国社会に、西洋医学を導入するためです。千葉で医学の精髓を十分に修得し、帰国した彼らは、西洋式の医学校を中国各地に創設し、日本で学んだ「知」を中国の若者に伝授していきます。OBの中からは現在の北京大学医学部や浙江大学医学部の前身校で教鞭を執り、近代中国の医学界の中核を担う人物も輩出していきました。

仙台医学専門学校(現東北大学医学部)の留学生だった魯迅が、指導教官との思い出を書いた短編小説「藤野先生」(1926年)は日中交流の佳話として良く知られています。しかし、千葉医専・医大も負けてはいません。魯迅のよ美学者になった人物がいまもいます。また医薬界に、多くの人材を輩出していきました。とりわけ、当時の社会が求めていた「公共衛生学」の分野で活躍した人が多かったようです。つまり、仙台医専の交流が「点」であったとすれば、千葉医専・医大は「線」から「面」

に広がっていく交流が形成されていったのです。1936年8月に中国視察をした東京帝大医学部長・永井潜が、北京大学医学院教授中の四名が千葉出身であったことについて、「千葉は医専時代から中国の留学生には大いに関心を持っていたので、蒔いた種が今芽を出した。千葉出身者は中国では多数重要な位置にある。また、(略)中国・青島で、同窓会「猪の鼻会」が開かれるなど)同出身者の教育の事業が非常に楽しい、実に意味深いものである事を痛切に感じました」と書き残しています(永井「中華民国医学界視察談」『同仁』1936年10月号)。中国において、千葉出身者たちはきわめて大きな役割を果たしていたのです。

最後に強調したいのは、1937年の日中戦争以降も、数千人の中国留学生が千葉医大を含む諸々の学校で学び続け、それを戦後に活かしていったという事実です。現在の東アジア情勢は必ずしも良好と言えませんが、戦中期の留学生と医科大教員が「未来」を信じ、教育・研究に取り組んでいた姿から学ぶことは多々あると考えます。千葉医専・医大が、ひいては日本の大学が、近代東アジアの知的交流にどのような役割を果たしたのかを検討した拙書に、興味を持たれた方は、ぜひ一読いただければ幸いです。最後になりますが、本書を発行するにあたり、あのはな同窓会、千葉医学会より出版支援していただきました。ここに記して深く感謝を申し上げます。



学内情報

るのほな同窓会支援

第8回 白衣式祝辞

平成30年1月26日(金) 於 記念講堂

るのほな同窓会長

済陽高穂 (昭45)

本日は学生の諸君ならびにご父兄の皆さん、白衣式おめでとございます。

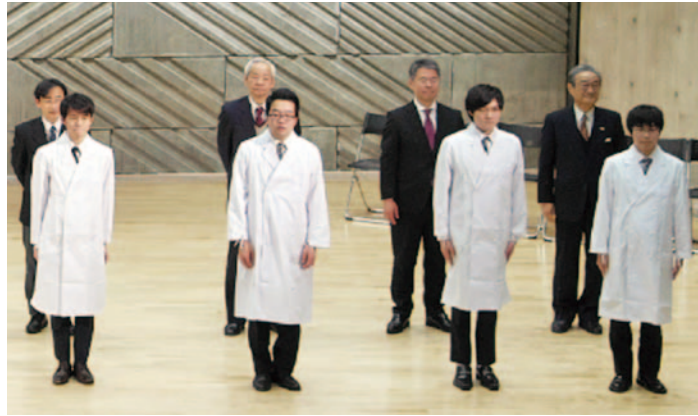
白衣を授与されて臨床実習に進むわけですが、これは、これまで4年間の講義や基礎医学実習と異なり、医療人の見習として、患者さんを前にして学ぶことで医学部が職業学校ということとを物語るものです。すなわち諸君の先輩で経験に富める医師たちから、病める人を前にして、病气への取り組み方、患者さんへの接し方を一人一人、手ずからマンツーマンで教えてもらうことです。

わが千葉大学医学部は歴史的に、優秀な研究者、あるいは熱意溢れる臨床医を数多く輩出してきました。なかでも、不治の病に対して独創的な手術を開発したり、難病への診断や治療方法を工夫して、国際的な評価を受けた先輩も大勢いる

わけです。シカゴに国際外科学会の本部があり、その横に医学の殿堂「Hall of Fame」が設けられています。青洲と並んで胸像が飾られた先輩もいるわけです。また、1月21日(日)には、成田の国際医療福祉大学の教授となった17名の方々に対し同窓会も共催して壮行会が行われました。36年ぶりの新しい医大に大挙して栄転することは、めったにない、まさに空前絶後のこととがらで、これも千葉大学医学部が素晴らしい評価を得た証拠

であり、徳久剛史学長はじめ、磯野可一元学長、齋藤康前学長、山本修一病院長などの、これまでの努力の賜であります。この様な先輩に続いて、諸君もこれから医療チームの一員として、誠意をもって患者さんに接し、ドクターマインドを忘れることなく、常にベストを尽くす心掛けで実習に臨んでください。

皆さんが千葉大学で素晴らしい医学教育を受け、医療界に貢献する医師として成長するよう願っております。自身の健康にも留意し、精一杯の健闘を祈ります。



第11回ちばBCRC



最優秀賞 菅原ゆたか さん (医4)

第11回ちばBasic & Clinical Research Conferenceが2月3日にるのほな記念講堂で開催されました。この会は研究マインドの涵養を目的とし、研究室紹介、特別講演とともに各研究室で日頃研究を行っている医学部学生の成果発表の場にもなっています。今回8演題の学生発表の中からメソトレキサートの新規標的遺伝子を明らかにした菅原ゆたかさんが最優秀賞に賞されました。

第112回医師国家試験成績

試験日	平成30年2月10日(土)・11日(日)		
合格発表	平成30年3月19日(月)		
受験者	107名 (新卒者 100名)		
合格者	100名	合格率	93.4%
		(新卒者)	95名 合格率 95%
参考	国立	合格者	4,835名
		合格率	91.2%
	全国	合格者	9,024名
		合格率	90.1%



学習環境整備のための助成を継続的にるのな同窓会から頂いており、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。これまで学習用図書、発表練習等のためのプロジェクトなどを購入し、学生が学習に活用しております。

2017年度より医学部でメンター制度を開始したことに伴い、学習用図書の推薦とは別に、先生方が読んで感銘を受けた本あるいは学生時代に読んでほしい本を推薦いただく企画を始めました。目的は、学生が

るのな同窓会支援

『教授が薦めるこの1冊』

(附属図書館亥鼻分館)

千葉大学附属図書館亥鼻分館長

安西尚彦(平之)

『教授が薦めるこの1冊』は、亥鼻分館内にて展示、リーフレットを配布しています

織田 成人先生 (救急集中治療医学)

『医学は科学ではない』

米山 公啓著 筑摩書房 2005年

本書は、医療現場においては意外と科学に基づかない診断や治療が行われており、決してすべてを科学的に行っているわけではないことを様々な角度から論じている。医療を提供する者として、医学・医療の本質とは何かを考えさせられる書籍である。

白澤 浩先生 (分子ウイルス学)

『完訳7つの習慣』 /

The 7 Habits of highly effective people

スティーブ・R・コヴィー著 キングベア一出版 2014年

世界的なベストセラーとなったビジネス書で、医学とは関係のない書だが、職種に関係なく全ての人が読んで悔いのない書だと思ふ。私は、教授になってから読んだが、もっと早い時期に読んでいれば良かったと思っている。邦訳も出ているが、原書もお薦め。

清水 栄司先生 (認知行動生理学)

『脳はなぜ都合よく記憶するのか

—記憶科学が教える脳と人間の不思議』

ジュリア・ショウ著 服部 由美訳 講談社 2016年

米国の著名な心理学者エリザベス・ロフタスは、false memory (偽の記憶) に関する研究者と知られており、人間の記憶は、事実をビデオのように正確に残しているようなものではなく、事実と想像が入り混じって再構成されたものであるという考え方を定着させた。本書は、彼女に続き、人に偽の記憶を植え付ける実験をしている英国の若手の研究者によるもので、本書の内容から、彼女は「記憶ハッカー」とマスコミから異名をつけられたという。

瀧口 正樹先生 (遺伝子生化学)

『緑のハインリヒ』 (1~4)

ゴットフリート・ケラー作 伊藤武雄訳

岩波書店 1969-70年

ケラーはスイスのゲーテと言われた人で、その自伝的小説とされる。亡き父の緑の服を仕立て直して着ているハインリヒは、チューリヒやその近郊の村で、多感な少年時代を過ごす。画家を志し、母を残して、ミュンヘンに学ぶが、夢破れる。帰郷の途中、思わぬ出会いがあるが、さらに挫折が。やがて、懐かしい人との再会が教いの転機に。自分の若い頃に重ねて、5回、10回と読み返している。緑の絹の表紙のドイツ語原書もあり、定年後に読むのを楽しみにしている(笑)。

メンターを選択する際の参考として活用してもらおうと、学生の読書への興味関心を高めることです。初回は「教授が薦めるこの1冊」と題し、27人の教授からコメントとともに本を推

薦していただき、4月から数か月間、本とお寄せいただいたコメントを亥鼻分館内に展示しています。また展示期間終了後も何らかの形で学生への提供を続け、今後はより広く、医学部教

員が薦める1冊の情報を届けていきたいと考えております。亥鼻分館にお越しの際は、1階の展示コーナーにもお立ち寄りください。

平成30年度 医学部課外活動団体

【体 育 系】		【文 化 系】
硬式野球部	男子硬式庭球部	東洋医学研究会
女子硬式庭球部	サッカー部	軽音楽部
男子バスケットボール部	山岳部	世界の医療を考える会
卓球部	剣道部	るのな音楽部
軟式庭球部	柔道部	るのな手話の会
スキー部	水泳部	ACLS研究会
陸上競技部	弓道部	亥鼻バンドサークル
男子バレーボール部		獅鷹会
女子バレーボール部		亥鼻医療政策研究会
ラグビー部		潮汐研究会
バドミントン部		白鯨社
空手道部		ぬいぐるみ病院
自動車部		C-TAT
ヨット部		Chiba Inohana Magicians' Society (CIMS)
ゴルフ部		千葉医ゼミに行く会
女子バスケットボール部		亥鼻びあの倶楽部
亥鼻ダンスサークル		General Medicine Interest Grroun
亥鼻フットサル部		バイオインフォマティクス研究会
亥鼻マッスルサークル		亥鼻ジャズ研究会

課外活動団体だより

亥鼻びあの倶楽部

医学部4年 齊藤 剛

剛

亥鼻びあの倶楽部は、昨年の夏に結成されたばかりの新しいサークルです。現在、医学部6人、薬学部2人、看護学部3人の計11人で活動しています。ピアノを習っていたり、過去に習っていたという部員が多いですが、ピアノ未経験の部員も中にはいます。部員同士の仲も良く、いつも和やかな雰囲気です。活動して

います。活動は基本的に自主練習です。部室にあるピアノを使って、各々の弾きたいときに個人で練習しています。最近ではピアノソノの曲だけにとどまらず、ピアノが入った室内楽曲(クイーンレット、トリオなど)にも取り組んでいます。亥鼻キャンパスに通う学生は一人暮らしの人が多

く、家でピアノを練習することが難しい人がほとんどです。そのため、大学生になると同時にピアノをやめたい、そのまま弾かなくなってしまう人も多くいると思います。亥鼻びあの倶楽部には大学生になってもピアノを続けたいという思いのある人が集まり、部室にあるピアノで日々練習しています。

亥鼻びあの倶楽部の前身となったのは吉田倶楽部という団体でした。吉田倶楽部は亥鼻キャンパスでピアノの演奏活動を行う団体でしたが、大学非公認の団体でした。昨年の春、吉田倶楽部は部員の増加に伴い、また活動の幅を広げるといふ目的もあり、医学部公認のサークルを目指すことになりました。こうした経緯で、吉田倶楽部は亥鼻びあの倶楽部として新しくスタートを切ることとなりました。

平成29年度 部員集合写真 部室にて



ただける機会も作っていきたいと思っています。今後亥鼻びあの倶楽部をよろしく願います。

卓球部

医学部4年 松田 和 暁

千葉大学医学部卓球部は3年前に還暦を迎えた伝統ある部活です。現在は医学部、薬学部、看護学部の3学部合わせて部員総勢約50人で日々練習に励んでいます。大学から始めた人も経験者も皆で一緒に練習しています。それぞれが個々のプレイスタイルにあった練習をする他、時には上級者が指導をして技術の向上を図り、種々の大会で良い成績を収めるために日々精進しております。最近は人数が増えてきたこともあり、練習グループを2つに分け、最初に多球練習と対人練習を交互に行い、最後に部員同士で試合をします。多球練習ではフットワークを強化したりフォームを固めたりし、対人練習ではそれらを生かして実践的な練習を行います。練習日は水曜日、金曜日、土曜日です。水曜日はバドミントン部と体育館を共有しているため、主

にダブルスの練習をしています。主な大会として、春夏季関東医科学学生卓球大会(4月)、医系交流戦(5/6月頃)、新人戦(10月)、秋季関東医科学学生卓球大会(11月)、東日本医歯薬学生卓球大会(3月)などに参加しています。8月は、医学部は東日本医科学学生総合体育大会、薬学部は全日本薬学生卓球大会、看護学部は全日本保健学生卓球大会に参加しています。大会には個人戦と団体戦があり、団体戦は部内で強い人が出場していますが、個人戦は全員が出場します。そのためレギュラーでなくても試合に参加できるのが卓球部の特徴です。また初心者でも取り組みやすいスポーツであることもあり、最近では大学から卓球を始めた人でも強くなってレギュラーとなり団体戦に出場しています。この他には3月に東北大学、信州大

- 役員
- 代表 齊藤 剛
 - 副代表 池田 浩輔
 - 会計 宇川 達貴

亥鼻びあの倶楽部の前身となったのは吉田倶楽部という団体でした。吉田倶楽部は亥鼻キャンパスでピアノの演奏活動を行う団体でしたが、大学非公認の団体でした。昨年の春、吉田倶楽部は部員の増加に伴い、また活動の幅を広げるといふ目的もあり、医学部公認のサークルを目指すことになりました。こうした経緯で、吉田倶楽部は亥鼻びあの倶楽部として新しくスタートを切ることとなりました。

亥鼻びあの倶楽部の前身となったのは吉田倶楽部という団体でした。吉田倶楽部は亥鼻キャンパスでピアノの演奏活動を行う団体でしたが、大学非公認の団体でした。昨年の春、吉田倶楽部は部員の増加に伴い、また活動の幅を広げるといふ目的もあり、医学部公認のサークルを目指すことになりました。こうした経緯で、吉田倶楽部は亥鼻びあの倶楽部として新しくスタートを切ることとなりました。



平成29年 合宿

学、新潟大学、金沢大学と五大定期戦を、7月には順天堂大学や筑波大学、群馬大学などと交流試合を行っています。大学間での親睦を深めています。また部員の中には地方で行われるオープン戦に参加して試合の経験を積む人もいます。最後となりますが、私たち卓球部の活動はOB、OGの方々に支えられて成り立っており、この場をお

借りしてお礼申しあげます。今後そのことを忘れず、千葉大学医学部卓球部を盛り上げていきたいと思っています。引き続きご支援ご協力の際、何卒よろしくお願いたします。

- 役員
- 主将 松田 和暁
 - 副将 佐藤 玲紋
 - 会計 富澤 寛
 - 主務 鈴木 康広
 - 総務 渡邊 篤生

平成30年卒業生の卒後研修先

1年目	2年目	人数	1年目	2年目	人数
千葉市立青葉病院	千葉市立青葉病院	6	鉦路赤十字病院	鉦路赤十字病院	1
千葉市立青葉病院	千葉大学医学部附属病院	1	三井記念病院	三井記念病院	1
千葉ろうさい病院	千葉ろうさい病院	6	埼玉県済生会川口総合病院	埼玉県済生会川口総合病院	1
千葉ろうさい病院	千葉大学医学部附属病院	1	聖隷横浜病院	千葉大学医学部附属病院	1
国保旭中央病院	国保旭中央病院	5	東京通信病院	東京通信病院	1
君津中央病院	君津中央病院	5	関東中央病院	関東中央病院	1
君津中央病院	千葉大学医学部附属病院	2	上都賀総合病院	千葉大学医学部附属病院	1
成田赤十字病院	成田赤十字病院	4	公立昭和病院	公立昭和病院	1
千葉県済生会習志野病院	千葉県済生会習志野病院	3	多摩総合医療センター	多摩総合医療センター	1
国立病院機構千葉医療センター	国立病院機構千葉医療センター	3	都立墨東病院	千葉大学医学部附属病院	2
国立病院機構千葉医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	東京警察病院	東京警察病院	1
日本赤十字社医療センター	日本赤十字社医療センター	3	東京都保健医療公社豊島病院	東京都保健医療公社豊島病院	1
松戸市立総合医療センター	松戸市立総合医療センター	3	船橋市立医療センター	船橋市立医療センター	1
松戸市立総合医療センター	千葉大学医学部附属病院	1	市立豊中病院	大阪大学医学部附属病院	1
横浜労災病院	横浜労災病院	3	沼津市立病院	千葉大学医学部附属病院	1
千葉大学医学部附属病院	千葉大学医学部附属病院	2	焼津市立総合病院	東京大学医学部附属病院	1
千葉大学医学部附属病院	未定	1	医療法人財団荻窪病院	医療法人財団荻窪病院	1
東京新宿メディカルセンター	東京新宿メディカルセンター	3	船橋二和病院	船橋二和病院	1
東京大学医学部附属病院	東京大学医学部附属病院	2	津田沼中央総合病院	津田沼中央総合病院	1
東京大学医学部附属病院	未定	2	彩の国東大宮メディカルセンター	彩の国東大宮メディカルセンター	1
武蔵野赤十字病院	武蔵野赤十字病院	2	川口工業総合病院	東京医科歯科大学	1
国立病院機構東京医療センター	国立病院機構東京医療センター	1	千葉中央メディカルセンター	未定	1
船橋中央病院	千葉大学医学部附属病院	1	千葉メディカルセンター	千葉メディカルセンター	1
有明病院	東京大学医学部附属病院	1	手稲溪仁会病院	手稲溪仁会病院	1
自治医科大学附属さいたま医療センター	自治医科大学附属さいたま医療センター	1	永寿総合病院	永寿総合病院	1
国際医療福祉大学三田病院	国際医療福祉大学三田病院	1	日立総合病院	日立総合病院	1
深谷赤十字病院	千葉大学医学部附属病院	1	日立総合病院	東京大学医学部附属病院	1

平成29年度 第2回理事会議事要旨抜粋

日時：平成29年11月16日 (木) 18時より
場所：ステーションコンファレンス東京

出席者…

濟陽高穂 (会長)
鈴木信夫 (副会長)

吉川広和 (副会長)

吉原俊雄 (副会長)

秋葉哲生 (会計監事)

岩倉弘毅 (会計監事)

大井利夫 (参与)

税所宏光 (参与)

青木 謹 赤倉功一郎

石川昭雄 伊藤達雄

上田真喜子 岡本和久

小野田昌一 崎尾秀彰

宍倉正胤 白澤 浩

諏訪敏一 諏訪園靖

田邊政裕 角田隆文

十川康弘 忍頂寺紀彰

幡野雅彦 花輪孝雄

林田和也 宮坂 斉

横須賀忠

鈴木 守 (群馬代理)

吉村健佑 (千葉代理)

(敬称略)

会議に先立ち新理事(諏訪敏一氏、石川昭雄氏、上田真喜子氏、赤倉功一郎氏、横須賀忠氏、宮坂斉氏、諏訪園靖氏)から挨拶をいただいた。
濟陽高穂会長の挨拶の後、同会長が座長となり議事が進められた。

後、同会長が座長となり議事が進められた。

1. 報告事項

(1) 予算執行状況 (中間報告)

幡野雅彦理事より、資料に基づき平成29年度の予算執行状況の中間報告がされた。収入については会費収入、事業収入ともほぼ例年どおりである。支出については教育助成金、同窓会活性化経費の支出について説明され、了承された。

(2) 広報編集関係

白澤浩理事より、のりな同窓会報を平成30年1月1日発行する予定で進められており、発送については29年12月21日に(株)パイオニアの協力のもと作業が行われることが報告された。

(3) ホームカミングデイ開催状況

白澤理事より、平成29年11月5日(日)亥鼻祭に合わせて開催されたホームカミングパーティーについて報告があった。吉村健佑氏

から資料により詳細について説明があり、15時よりのはな同窓会館ホールにて2時間ほど催され千葉大学長はじめ多くの同窓会員や現役の学生などが訪れ、盛会であった事が報告された。

(4) 総会開催日程について

吉原俊雄副会長より、来年度の総会の担当は東京のはな会であり、平成30年6月9日(第2土曜日)16時から銀座アスターお茶の水賓館にて開催されること説明された。

(5) のりな同窓会員名簿

白澤理事より、今回発行の名簿には個人情報問題により大学院関連の掲載ができなかった事について説明があった。

2. 協議事項について

(1) 役員会務分担について

白澤理事より、資料に基づき役員会務分担について説明があり、新会計監事に岩倉弘毅氏、新理事の会務について説明があった。吉原副会長より、吉村健佑

(2) のりな同窓会誌発行企画

鈴木信夫副会長より、資料に基づき説明があった。のりな同窓会報の合本「158号(平成23年9月発行)から171号(平成27年1月発行)」を100部作成する案が説明された。今後の企画として会誌発行企画(同窓会の歴史や写真等記録をまとめる)、古い会報のデジタル化(会報4号から129号)については引き続き検討する事とした。

した。中京、近畿から推薦の理事が認められ、現在32名の理事について承認された。各支部名については大学の名称を決める事が求められ、各地区のはな会は、〇〇のはな会とした方が分かりやすいとの意見があった。理事会終了後に「静岡のはな会」、「茨城のはな会」、「埼玉のはな会」とすると各理事より報告があり、今後はこの名称を使用する事とした。

(2) 同窓会賞選考委員について

白澤理事より、資料に基づきのはな同窓会賞選考委員候補について説明があり、高橋和久(昭51)氏、廣島健三(昭54)氏、加藤佳瑞紀(平4)氏が新選考委員として承認された。

(3) のりな同窓会誌発行企画

鈴木信夫副会長より、資料に基づき説明があった。のりな同窓会報の合本「158号(平成23年9月発行)から171号(平成27年1月発行)」を100部作成する案が説明された。今後の企画として会誌発行企画(同窓会の歴史や写真等記録をまとめる)、古い会報のデジタル化(会報4号から129号)については引き続き検討する事とした。

(4) のりな同窓会館関連施設設立(メモリアルウォール)

田邊政裕理事より、資料に基づきのはな同窓会館II期工事について説明があった。①のはな同窓会館に併設したメモリアルウォールで壁面に医学部の歴史を年表として作成する。②新研究棟(11階建て)の入口ホールにパネルとして設置する。2つの提案について検討したが、資金計画とも合わせて今後引き続き検討する事とした。

(5) 出身校名について(名簿掲載)

吉原副会長より同窓会名簿の中で昭和30~40年卒の先生方の大半が当時の進学制度上の問題で、出身高校名がなく医進、千大文理となっている。複数の先生方からの要望もあるため出身高校名を掲載するように変更するという提案があり、承認された。次回発行の名簿には高校名を掲載できるように調査することとなった。

(6) その他

・国際医療福祉大学医学部教授就任壮行会が平成30年1月21日(日)暮張にて開催予定である。以前の常任理事会にて承認済の数十万円程度を同窓会からの支援

とする事とした。
・理事会の代理出席の申し合わせ事項について「各地区会長と同窓会長の承認を得て、欠席理事の代わりに理事以外の地区会員による代理出席を認める」の案が承認された。

・昭43年卒クラス会よりの提案「卒後50周年基金」の申合せ事項(案)について説明があり、今後50周年を迎える後輩学年にも同じような志を持つてのはな同窓会の資金面でのバックアップが続けられるように伝えてほしいとの意見があり、申合せ事項に加える事とした。

・千葉県のはな会の昨年から取組として「次世代リーダー育成海外留学奨学金」についての説明があった。

・シーズ基金への寄附については「医学部への寄附」と明記すれば千葉大学全体でなく医学部への寄附と限定できる事が説明された。
・理事からの意見として、のりな同窓会としても今後「次世代リーダー育成海外留学奨学金」と同様の協力をすべきとの意見もあった。また、将来同窓会の法人化の是非に関する意見も述べられた。

会費納入のお願い
口座振替のすすめ

のりな同窓会費(5,000円)の納入をお願い致します。

会費納入には口座振替が便利です。

口座振替申し込み用紙は同窓会事務局までご請求ください。

TEL : 043-202-3750

e-mail : info@inohana.jp

平成29年度 第3回理事会議事要旨抜粋

日時：平成30年2月14日
(水) 18時より
場所：ステーションコン
ファレンス東京
出席者…

- 濟陽高穂 (会長)
- 鈴木信夫 (副会長)
- 吉川広和 (副会長)
- 吉原俊雄 (副会長)
- 岩倉弘毅 (会計監事)
- 秋葉哲生 (会計監事)
- 三枝一雄 (参与)
- 大井利夫 (参与)
- 税所宏光 (参与)
- 青木 謹 赤倉功一郎
- 石川詔雄 上田真喜子
- 岡本和久 小野田昌一
- 黒木春郎 崎尾秀彰
- 穴倉正胤 白澤 浩
- 諏訪敏一 諏訪園靖
- 十川康弘 忍頂寺紀彰
- 幡野雅彦 花輪孝雄
- 三科孝夫 横須賀忠
- 鈴木 守 (群馬代理)
- 吉村健佑 (千葉代理)

濟陽高穂会長の挨拶の後、同会長が議長となり議事が進められた。

に基づき予算の執行状況中間報告の説明があり、収入についてはほぼ例年並みの執行状況であるが、今年度発行の名簿広告収入があり、支出についてもほぼ例年並みの執行状況である事が報告され、了承された。会費納入率は若い学年が低いことが参考資料により示された。

(2) 白衣式、国際医療福祉大学医学部教授就任壮行会
濟陽高穂会長より資料に基づき白衣式、壮行会出席報告がされた。白衣式は毎年ビデオ収録し学生に配布している。国際医療福祉大学教授就任壮行会は二百数十名を越す参加があった。

(3) 卒後60周年記念メダル、感謝状
昭和32年卒業の先生方へ卒後60年の記念メダルと感謝状を贈呈した。今後60周年を迎える学年の先生方へ贈呈していきたい旨の報告があった。

2. 協議事項
(1) 平成30年度行事予定
白澤浩理事より資料に基づき行事予定は、ほぼ例年通りであり、理事会は3回、会報発行も3回予定している。同窓会賞の受賞者

の決定は4月、総会の開催は6月第2土曜日、担当は東京ゐのはな会である。ホームカミングデイは亥鼻祭と同時開催とする。以上の予定が説明され了承された。

(2) 平成30年度総会について
吉原俊雄副会長より資料に基づき総会は、6月9日(土) 16時より銀座アスタール御茶の水資館で開催、講演は堺常雄先生(昭45)他一名に依頼する旨説明された。

(3) 平成30年度予算編成
幡野理事より資料に基づき予算編成はほぼ例年通りであるが、理事会費で支部活性化のため20万円増額、ちばBCRC支援でメダル作製費のため8万円増額、同窓サポートプロジェクトで卒後60年のメダル等作製のため55万円の増額などの説明があり了承された。

(4) ゐのはな同窓会誌発行企画
鈴木信夫副会長より、ゐのはな同窓会報合本(第158号・171号)を作製し各理事、地区ゐのはな会長に配布した事の報告があった。資料に基づき会報デジタル化、また、企画が提案されているゐのはな会誌の見積もりが示された。会報デジタル化については業者にPDFの作成、HPへの公開を依頼する事が説明された。同窓会誌発行については、会誌編集者を各地区より公募し編集委員会を立ち上げ内容を検討するための予算措置の必要性などが説明された。

各理事より、会誌発行については前回の理事会において決議されておらず、未だコンセンサスが得られていないと認識している等複数の意見が述べられ、更なる検討が必要とされた。

(5) ゐのはな同窓会館関連施設設立(メモリアルウォール)
吉原理事より資料に基づき説明があり、ゐのはな同窓会館に併設、新設(案)、新研究棟の玄関ホール等にパネル設置(案)に加え、新たに、各科で廃棄せざるを得ない重要な物品保存について記念講堂の利用が提案された。いずれも実現のためには実行委員会の発足が必要であるとされた。また、一連の事業の名称を「メモリアル事業」等へ変更の必要性も述べられた。大学医学研究院内ではレガシー事業のワーキンググループが設置され検討を始めていること、現在の医学部の建物を温存する可能性も模索していることが報告された。今後、「メモリア

ル事業」(仮称)を総務会で検討して理事会に諮る事が大井利夫参与から述べられた。

(6) 争訟事案(ゐのはな同窓会館建設費)について
中谷晴昭千葉大学理事、鈴木施設企画課長より、資料に基づき説明された。ゐのはな同窓会館建設費について担当建設会社が建物完成後に追加変更工事代金の支払いを請求する訴えを起し、数回の調停後に裁判所から和解提案がされた。弁護士費用については大学にて負担する予定である

が、和解金相当額の支払いについて同窓会に相談することとした。現在和解が決まっていないため、改めて大学より相談がある旨説明された。同窓会としての対応は総務会で検討して理事会に諮ることとした。

(7) その他
・国立大学法人の寄付金、千葉SEEDS基金について濟陽会長より説明があった。

・濟陽会長よりロゴマーク入りの便箋作成についての提案があり、サンプルが示された。

○ 住所変更・勤務先変更された方は、同窓会事務局までご連絡ください。

個人情報保護法のため、異動先が把握しにくくなっております。ご協力くださいますようお願い致します。

事務局
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp

医療従事者向け生命保険・損害保険のご用命は…
千葉大学ゐのはな同窓会「会員総合補償制度」担当

医療従事者が検討すべき保険って医師賠償だけ?
詳しくは弊社ホームページにて
<http://www.pioneerltd.com/>

PIONEER 株式会社パイオニア
Tel. 0475-23-8442 (営業時間 8:30-18:00)

オンライン会報案内

<http://www.inohana.jp/online/index.html>



オンライン会報では、医学・医療の神髄を伝えるべく、独自の企画で番組を作製しております。例えば、オンライン書庫におけるゐのほな同窓会員の著作物の紹介では、著者の姿や思いを語る動画を併設するようにしております。そこで、本案内では、最近掲載した番組の例をお知らせします。

一方、研究志向の会員の皆様へは、過去に、申請会員の皆様方で採択率の高かった研究費助成団体の紹介もしております。その例を提示します。ご活用ください。

オンライン会報 総合目次

*本ページの動画はmp4形式です。ご覧になれない場合は、mp4対応のプレーヤーをインストールしてください。
*古い動画コンテンツの中には僅かですが専用の再生ソフトが必要なものがあります。

- 病院紹介
- オンライン書庫
- 求人・求職
- 同窓会
- 同窓会員経営の病院・医院・診療所の紹介
- クラス会・他大学等
- 生涯学習講座
- キャンパス便り
- インタビュー
- 福祉関連情報
- 国際交流
- 「ほっとひといき」ちば通信（千葉日報）
- 都道府県医師対策
- 協賛企業からのお知らせ

オンライン会報 総合索引

- 氏名
- 病院・医院・診療所

■ オンライン書庫

【諸団体の紹介】



NEW
公益信託
五峯ライフサイエンス国際基金
平成31年度募集要項
 ・ポスター
 ・平成31年度募集要項
 ・募集機関一覧表（25機関）
 [2018. 4. 1掲載]

- ▶ 記事を読む
- ▶ 記事を読む
- ▶ 記事を読む



公益財団法人
土屋文化振興財団
 [2015. 1. 16掲載]



とうきゅう環境財団
 ・とうきゅう環境財団
 研究助成情報
 ・社会貢献学術賞受賞
 候補者推薦要綱



公益財団法人
猪之鼻奨学会
 [2012. 11. 16掲載]



一般財団法人
濱口生化学振興財団
 ・助成金応募要項
 [2012. 11. 16掲載]

【書籍】

掲載書籍をご覧になりたい方は同窓会本部へご連絡ください。

1. 会員著書

- 著者「大場敏明先生」が語る ▶「その人らしい生活と人生をささえて、はや13年」を見る



NEW
かかりつけ医による「物忘れ外来」のすすめ
 大場敏明・高杉春代共著
 ・「はじめに」を読む
 ・「目次」を読む
 [2018. 3. 7掲載]



NEW
ともに歩む認知症医療とケア
 大場敏明・高杉春代共著
 ・「はじめに」を読む
 ・「目次」を読む
 [2018. 3. 7掲載]

- 著者「西野卓先生」が語る ▶「呼吸調節研究への道 -マイ・ウェー」[2012. 4. 25掲載] を見る



呼吸を科学する
 千葉大学名誉教授
 西野卓著
 ・「序文」を読む
 ・「目次」を読む
 [2018. 1. 31掲載]



苦痛を科学する
 千葉大学名誉教授
 西野卓著
 ・「序文」を読む
 ・「目次」を読む
 [2018. 1. 31掲載]

- 著者「花井透先生」が語る著書への思い ▶インタビュー「平和への希求」を見る



・「まえがき」を読む
 ・「目次」を読む
 [2017. 12. 1掲載]



・「まえがき」を読む
 ・「目次」を読む



・「目次」を読む
 ・「あとがき」を読む



尿路結石 (尿路結石)

- 発行所 (発行所)
- 阅读目录 (目次を読む)



ライフセラミックスが語る健康の泉

- 「目次」を読む
- 「はしがき」を読む
- 冊子入手方法を見る

- 伊藤晴夫先生に聞く (対伊藤先生提问)

(1) 中国語版作成の経緯

▶ 映像を見る

(発行中文版图书の经过原委→点击查看视频)

(2) 特に読んでいただきたい方・ライフワーク

▶ 映像を見る

との関連、等

(特別面向的读书人士・书籍与伊藤先生一生事业的关联→点击查看视频)

(3) 中国語通訳を聞く

▶ 映像を見る

(听中文翻译版→点击查看视频)

- 伊藤晴夫先生著書一覧 (伊藤晴夫先生的著作总览)

[2016. 6. 20掲載]

ヒトSOS 応答研究基盤による健康長寿素材の開発情報

(1) ライフセラミックス研究委託理念について

▶ 映像を見る

(2) ライフセラミックス素材について

▶ 映像を見る

(3) 中国語通訳・英語通訳

▶ 映像を見る

(听中文翻译版・英语翻译版)

(Chinese・English translation)

[2016. 6. 20掲載]



運命の子 トリソミー

松永正訓

(松永クリニック小児科・小児外科 院長)

障害新生児の生命倫理との闘い

- 障害新生児を守るものは何か?

▶ 映像を見る

- 障害児の生活の一部に医療がある

▶ 映像を見る

[2016. 3. 22掲載]



その鎮静、ほんとうに必要ですか

さくさべ坂通り診療所

院長 大岩 孝司

副院長 鈴木 喜代子

- 「序文」「目次」を読む

▶ 映像を見る

- がん終末期を生き抜く人の尊厳は守る!!

▶ 映像を見る

- 込み入った疼痛の理由を明かす

▶ 映像を見る

- 緩和ケアの柱は、全人的ケアにある—

▶ 映像を見る

- 深い持続的な鎮静は安楽死

▶ 映像を見る

- 終末期がんの疼痛は避けることができる—

▶ 映像を見る

- 疼痛とせん妄

- 終末期ケアに伴うふたつの課題—

▶ WEBサイト

[2014.12.4 掲載]

田川崎 新吾 (昭29) 東京医大・昭6
 相川崎 光彦 (昭18) 慈恵医大・昭9
 吉崎 秋津 (昭18) 帝国女医専・昭19
 鈴木 秀子 (昭18) 岩手医専・昭20
 大嶺 幸博 (昭22) 小倉 敬一 (昭35) 西川 侃介 (昭35)
 加藤 宏一 (昭22) 宮里 義弘 (昭37) 永山 恵美子 (昭39) 茂山 和生 (昭41) 高林 和夫 (昭45) 西村 聰武 (昭47) 中村 勉 (昭48) 上村 重明 (昭48) 内藤 重威 (昭51) 川島 雄一 (昭51) 海宝 雄一 (昭52)

おくやみ

有水 昇 (昭29) 陶 易王 (昭29) 福田 恵司 (昭31) 小野 清四郎 (昭32) 岡村 隆夫 (昭35) 西川 侃介 (昭35) 小倉 敬一 (昭37) 宮里 義弘 (昭39) 永山 恵美子 (昭41) 茂山 和生 (昭45) 高林 和夫 (昭47) 西村 聰武 (昭48) 中村 勉 (昭48) 上村 重明 (昭48) 内藤 重威 (昭51) 川島 雄一 (昭51) 海宝 雄一 (昭52)

第178号のるのほな同窓会報(総会号)をお届け致します。本号も、編集後記で紹介するには紙面が不足するほど充実した盛沢山の記事で溢れています。お楽しみだけでしたら幸いです。

本会報は、本号で60周年目を迎えました。昭和34年に新聞形式の会報として発行されて以来、幾度かの休刊の危機はありながらも、ほぼ年3回のペースで間断なく発行されてきました。本号におきまして、るのほな同窓会の歴史の一ページを同窓会員の皆様に無事お届けできたことを嬉しく思います。

編集委員の特権として、同窓会事務局に保存されているバックナンバーの記事

編集後記

を拾い読みするだけでも、千葉大学医学部入学時以来の私の個人の記憶が絵巻物のように蘇り、時が経つのを忘れてしまいます。さらに遡れば、先達の卓見を多くの感銘をもって読み取ることができ、貴重な歴史資料としての価値には計り知れないものがあります。歴代の編集委員長、編集委員、事務局をはじめとする関係者の無私な努力と苦勞が偲ばれます。

本会報の形式も、新聞形式からB5版、A4版と変遷して来ましたが、本会報は紙媒体ですが、平成14年発行の第130号以降の会報はPDF版を同時に発行することができ、同窓会ホームページで閲覧することができます。一方で、

新聞形式の初期の同窓会報は、残部が希少で傷みが著しいことから、第1〜3号を電子化してPDF形式で公開しておりますが、全ての号の電子化には、諸般の事情により至っておりませんでした。

この度、スマートフォン等の情報端末の普及に鑑み、全バックナンバーを電子化し、全ての情報端末で閲覧できる電子媒体としてデファクトスタンダードとなったPDFでホームページにおいて公開できる運びとなりました。本年中には、いつでも、どこでも本会報のバックナンバーを閲覧できるようにする予定です。ご期待ください。

白澤 浩 (昭57)

千葉医学94巻1号 2018年2月

症 例
 小児における食物依存性運動誘発アナフィラキシーの誘発試験に関する検討
 藤本 遼 森田慶紀 加藤いづみ 地引利昭 金澤正樹 寺井 勝
 緊急腹腔鏡下手術で治療しえたMeckel憩室出血の1例
 野手洋雅 夏目俊之 丸山尚嗣 田中 元 貝沼 修 松崎弘志
 宮崎彰成 佐藤やよい 吉岡隆文 仙波義秀 小林拓史 鈴木啓介 水内 喬 玉貫圭甲

研究紹介
 ヒトSOS応答理論に基づく健康サポート食品基材の探索 - ライフセラミックス研究
 修 曉波 董 玫 喜多和子 朱 彤 馬 雪 鈴木 敦 鈴木信夫

エッセイ
 シャリター大学医学部病院連合ベルリン 高野光司

学 会
 第1338回千葉医学会例会・第37回歯科口腔外科例会
 第1339回千葉医学会例会・千葉大学大学院医学研究院 消化器・腎臓内科学(旧第一内科)例会
 第1351回千葉医学会例会・総合安全衛生管理機構研究発表プログラム(第5回桜美会)
 第1352回千葉医学会例会・第31回千葉集中治療研究会

CMJ要旨
 股関節唇損傷における3D isotropic-voxel MRIの診断有用性
 萩原茂生 中村順一 渡辺淳也 岸田俊二 折田純久 高尾正一郎 吉岡 大 大鳥精司 瀧口正樹

編集後記
 CHIBA MEDICAL JOURNAL
 Original Article
 The clinical utility of a 3D-isotrophic-voxel MRI compared to a 2D-radial sequence in diagnosis of hip labral tears
 Shigeo Hagiwara, Junichi Nakamura, Atsuya Watanabe Shunji Kishida, Sumihisa Orita, Shoichiro Takao Hiroshi Yoshioka and Seiji Ohtori

千葉医学94巻2号 2018年4月

原 著
 死因・身元調査法施行の解剖制度への影響に関する考察
 石原憲治 矢島大介 武市尚子 岩瀬博太郎
 金属クリップを用いた術中エコー法による完全腹腔鏡下幽門側胃切除術時の病変同定の有用性
 野手洋雅 夏目俊之 丸山尚嗣 田中 元 貝沼 修 松崎弘志
 宮崎彰成 佐藤やよい 吉岡隆文 仙波義秀 小林拓史 鈴木啓介 水内 喬 玉貫圭甲

症 例
 腹腔鏡下にて嵌頓解除したS状結腸間膜窩ヘルニアの1例
 毛利俊彦 石多猛志 今西 啓 堀部文倫 濱野美枝 鬼澤俊輔 太田正穂 片桐 聡 中村 努 新井田達雄

短 報
 NASHと乾癬の合併にかんする考察 伊藤 進

研修報告
 千葉大学予防医学センターによる
 第7回ジュネーブ国連・国際機関視察研修に参加して
 古賀千絵 戸高恵美子 中岡宏子 志賀里美 森 千里

学 会
 第1365回千葉医学会例会・第35回神経内科教室例会
 第1366回千葉医学会例会・臓器制御外科学教室談話会
 小林欣夫

編集後記
 Chiba Medical Journal
 Original Article
 Association of locomotive syndrome with present and past physical activities, and self-reported gait speed: a cross sectional study
 Satoshi Yamaguchi, Shunji Kishida, Naoki Yamazaki, Yasunori Sato Tomohiro Shirai, Ryuichiro Akagi, Takahisa Sasho Seiji Ohtori and Kazuhisa Takahashi
 第95回千葉医学会総会開催のご案内